



三徳開教110年

法音

今月のご法話

因は時を越えて
果を現します

平成29年
2月号 No.568



日蓮宗
法音寺



一人が一人を

是非一人は

是非一人は、仏となれる人に導きましよう。
法華経には、一人を導く功德は広大である
とあります。

その一人が、他の人を導く功德が又大きい
のです。

ついに一人を導く人が仏となります。

一人を導く人が極楽に住む人となります。

一人一人が極楽に住む人、仏になるのです。

御開山上人御遺訓『おりにふれて』

月刊・法音

平成二十九年二月号「568」

■目次■

【信仰の指針】^{もうこ} 忘己

【朝のこない夜はない】

因は時を越えて

果を現します

山首 鈴木正修

2

■ 講日のご案内

■ 有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください

■ 特別企画・聖の教え（十四）

■ とこのはの記 節分の意味

■ 読者の声 永田洋子（岐阜支院）

■ のりのもと 西に東に 転法輪・支院だより

■ 法音寺のホームページが新しくなりました！

■ 福祉のひろば 少子・高齢社会の中の日本の福祉

■ 福祉に生きる 昭徳会・特別養護老人ホーム小原安立の実践

■ 日本福祉大学・グローバル化社会のふくしを担う人材を育成

■ 賛助員ご芳名

■ 幸せの種まき／編集後記

■ 連載まんが・ひまわり・50 おかあさん

■ 法音寺関連書籍のごあんない

■ 法音寺の社会福祉・教育事業

表紙題字・信仰の指針 山首上人さま

表紙写真・球根ペゴテ

掲載写真

表紙・信仰の指針・3

15頁…梅田雅臣氏撮影

2頁…加納将人氏撮影

105 104 102 100 88 86 85 36 34 30 18 16 15

1

信仰の指針

忘己もうこ

何を第一にしていますか

日教五





朝のこない夜はない

山首 鈴木正修

因いんは時ときを越こえて

果かを現あらわします

絆きずな

情なさけは人ひとのためならず、めぐりめぐって己おのれがためとという諺ことわざがありますが、情なさけは人ひとと人ひとだけではなく、国くにと国くにの間あいだでもあります。

今こん回は日本にほんと台湾たいわんの友好ゆうこうについてお話はなをします。

昨さく年の春はる頃ころ、テレビを観みていましたら、変かわりつつある近年きんねんの台湾たいわんが特とく集しゅうされています。その中なかで、台たい湾わんでもぐまモンぐまもんが人にん気きで、ぐまモンカフェという店みせがでてきました。そこで、ぐまモングッズのオークションを



していただきました。驚いたのは、かなりの高額でぬいぐるみ等が落札されたことです。すぐにわかったのですが、そこで「熊本地震」への義援金を集めていたのです。あとという間に台湾全体で一億円集まったそうです。

台湾の人々は東日本大震災の時にも世界一の支援をしてくださいました。金額としては、日本赤十字が把握しているだけで日本円にして200億円を越えます。これは台湾の貨幣価値からすると、1000億円以上に相当します。支援物資も400トン以上で、世界中から集まった支援の三分の一を占めますが、実は日本赤十字社を介さずに送られた支援がその何倍もあったそうです。

その年の暮れに、台湾の新聞社が「今年一年、あなたにとって最高の幸せは何でしたか？」というアンケートをとりました。その回答で一番多かったのが「日本への義援金が世界一になったこと」でした。



どうして台湾の人々がこんなにも日本のことを思っ
くださるのでしょうか。それは1895年から1945
年までの50年間、日本が台湾を統治していたことに起因
しています。

日本精神

リージョウウェイ
李久惟という台湾の方がいます。李さんは東京外国語
大学を卒業し、15言語以上話すマルチリンガルです。現
在、台湾新幹線プロジェクトに従事されている李さんは、
次のように言われています。

「台湾人の心の深い所には、他の国とは異なる特別な思
いが日本に対してあります。いつか日本に恩返しをし
たい」という思いは、日本統治時代を生きた祖父たちが
らずっと引き継がれてきたものです。



台湾は歴史的に、互いの仲があまり良くない集落単位の村社会の時代が長く続き、なかなか大きなまとまりを持つことができない国でした。部族によって言葉や考え方が違い、狩猟の場や水や食べ物をめぐる戦いも頻繁にある、そんな極度な人間不信の歴史が数百年も続いてきたのです。

そのうち台湾は清国による統治を受けるようになりました。清国は村同士の対立をそのままにするだけでなく、統治しやすいようにするため、さらに争いが激化するよう仕向けました。その結果、水問題が深刻になり、9割の部族が飢餓にあえぎ、加えて水害も起き、重税がかげられ、人々の生活はさらに厳しくなっていました。

そんな中、起ったのがアヘンの流行です。日清戦争の後、日本が台湾を接収した時、実に16万人以上、軽度の人も合わせると20万人以上の常習者がいたと言われます。



人口のほぼ1割です。生活に苦しみあえぐ人に清国は、
良く効く妙薬としてアヘンをつかませていったので
す。人々はただでさえ食べるだけで精一杯なのに、アヘ
ンを買うためにさらに貧困にあえぐようになっていきま
した。そこにやって来たのが日本人です。

当時の台湾は疫病が流行り、アジアの最貧地域でした
から、誰も進んで来たくはなかったはずです。しかしそ
んな中でも日本の先人たちは台湾にやってきて、多くの
奇跡を起こしました」

日本の台湾統治も、はじめからうまくいった訳ではあ
りません。一年半の間に三度も総督が替わり、行政機構
もたびたび変更されました。台湾統治が軌道に乗ったの
は、明治31年、第4代台湾総督に児玉源太郎が就任し、
総督府民生長官に後藤新平（※）を抜擢してからです。



時に後藤新平40歳。それから満州鉄道総裁として転出する明治39年までのわずか8年間で後藤長官はアヘン問題を解決し、原住民ゲリラを帰順させ、台湾・鉄道・道路・上下水道を建設、さらに製糖産業を興すなど、矢継ぎ早に近代化政策を実行しました。この時築かれたインフラが、現在も台湾経済を支えていると言われています。医師でもあった後藤長官は医療・衛生面に力を入れ、アヘン撲滅に動きます。当時の世論は次のようなものでした。

「アヘンが我が国に伝播したらなんとする。吸飲する者は厳罰に処すべし。輸入や販売を行う者についても同様だ。従わない者は台湾から追い出せ。中国大陸に強制送還せよ」

このような厳禁説に対して後藤長官は「これでは各地に反乱が起き、何千人の兵士や警官が犠牲になるかわか



らない」と主張し、漸禁説をとりました。まず、中毒にかかっている者だけに免許を与え、特許店舗でのみ吸飲を認める。新たな吸飲者は絶対に認めない。アヘンは政府の専売とし、その収入を台湾における各種衛生事業施設の資金に充当する。という破天荒な政策でしたが、後藤長官の読み通り大きな混乱もなく、中毒患者は次第に減っていき、日本統治終了時には〇になっていました。次に後藤長官は日本で医師を公募し、各地に医院や診療所を作り、そこに医師たちを配置し、各地域の衛生思想の向上・改善・防疫・治療に当たらせました。その医師たちの中には自ら伝染病に罹り亡くなった人も大勢いました。後藤長官も医師たちも怯むことなく改革を続け、当初20カ所ほどだった医院や診療所が二百数十カ所になり、遂にはマラリアやペストが撲滅されたのです。また後藤長官は台湾人の医師を養成するために「台湾総



「**督府医学学校**」を創立しました。これが現在の国立台湾大学医学大学院となっています。後藤長官や医師たちの努力によって、台湾人の平均寿命は50年間で30歳から60歳へと伸びたのです。

後藤新平は気宇壮大な人物であると同時に緻密であり、大変人望のある人物でした。その人望に惹かれて日本から第一等の人物たちが集まって台湾の改革を成し遂げたのです。その代表は農業振興に呼ばれた新渡戸稲造博士だと思えます。そして、もう一人だけ紹介したいと思えます。それは八田與一という水利技術者です。

大の親日家で台湾の第8代総統であった李登輝さんがおっしゃっています。

「台湾に寄与した日本人を挙げるとすれば、おそらく日本人の多くはご存じないでしょうが、嘉南大圳（用水路）を10年かけて作り上げた八田與一技師が、いの一番に挙



げられるべきでしょう。嘉南平野にすばらしいダムと大
小さまざまな給水路を作り、15万ヘクタール近くの土地
を肥沃にし、100万人の農家の暮らしを豊かにした人
です」

当時、香川県ほどの大きさの嘉南平野は作物がで
きない不毛な土地でした。この土地を豊かにしたらど
れだけ多くの台湾人が救われるだろうと考え、八田
さんは開発計画書を作り上げました。工事費は今の
貨幣価値で4000億円という途方もない金額で
した。そこで総督府の後藤長官に相談すると「や
ってみろ」という返事だったのです。ここに後藤
新平という人物の懐の深さ、大きさを感
じずにはいられません。

八田さんは、当時の最新技術を勉強する
ために1年間アメリカに留学し、10年の歳月
をかけて当時東洋一の烏山頭ダムを作り
上げます。その間、富山県の黒部ダムが



そうであったように、大勢の方が亡くなりました。八田さんは仕事を中止するべきか苦慮しますが、逆に台湾の人たちに励まされて仕事を続行。また、一番危険な場所で先頭に立って働き、亡くなった工夫の遺族の世話までしたのです。

こうした功績を残した八田さんは未だに多くの台湾人に慕われています。5月8日の命日には、老若男女問わず大勢の人が、八田さんの銅像とお墓のある烏山頭ダムを訪れるそうです。

八田さんの出身地である金沢にも近年多くの台湾人が訪れています。今では台湾から石川県の小松空港に直行便が毎日就航するようになっています。台湾の人々にとっては聖地巡礼のような気持ちかもしれません。

台湾総督府は、人々の教育にも力を入れました。部族が異なれば言葉も異なり、会話もできない状態でしたの



で、日本人教師が各部落の言葉を研究し、日本語を教え、
共通の言語としました。その結果、台湾の人々は文字を
読めるようになり、世界中の本が読めるようになったの
です。日本語を強制したと悪く言う人がいますが、
それは違うと思います。共通の言語を持つことによって、
人々はお互いに話し合うこともできるようになったので
すから。

そして最高学府である帝国大学を大阪や名古屋よりも
先に作ったのです。当時の日本人がいかに台湾のこと、
その未来のことを思っていたかがわかります。

台湾の人々は、自己を顧みずに人に尽くす日本人に
大変な感銘を覚え、現代でも日本精神（リットンチェ
ンシン）を持っているというのが人々のほめ言葉とし
て使われているそうです。



おんをわす 恩を忘れない

日本の先人たちによって築かれた台湾との絆は本当にすばらしいものです。その絆をより一層強固なものにするために、私たちもリップンチェンシンを持って台湾の方々と接し、さらに世界の人々を遇することが大事だと思います。

(※) 後藤新平について

始祖杉山辰子先生物語『安立行』(下)によると、杉山・村上両先生は後藤新平伯爵と親交が厚かったとあります。後藤伯爵は、かつて村上先生が奉職した愛知病院の院長だったこともあり、お二人を親しく邸宅に招くほどだったと言います。国民のリーダーこそ三徳実行をという杉山先生の信念に伯爵の心は動かされたのだそうです。

(広報委員会)



良い教えの話を聞きましょう。

全国の法音寺各支院・布教所では毎月の講日の中で
三徳の教えを聞くことができます。

是非講日にご参詣いただき、
教えを心にしみ込ませましょう。

法音寺本山は毎月7日、17日、27日が講日です。

◆今月の山首上人さまご親修日程

上野支院	2月1日(水)・講日	福山支院	2月4日(土)・節分会
四日市支院	2月5日(日)・節分会	東京支院	2月11日(祝)・節分会
岡山支院	2月12日(日)・節分会	大阪支院	2月23日(木)・講日

有縁の支院・布教所に、ご自由にご参詣ください。

支院名	毎月の講話日	住所	電話番号
大乘山泰明寺	5日・20日	名古屋市中村区名駅2-37-3	☎(052)581-2069
開基堂	10日	江南市寄木町天道18	☎(0587)53-5436
東京支院	第1日曜日・11日※・15日・第4土曜日	東京都練馬区谷原2-6-37	☎(03)3904-1251
山形布教所	10日	山形市長町2-4-6	☎(023)681-0770
静岡支院	2日・5日※・12日・22日	磐田市長崎4-7-3	☎(0538)32-6625
豊川支院	4日※・20日	豊川市中野川町1-26-3	☎(0533)86-4704
安城支院	4日※・18日・28日	安城市新田町小山31-25	☎(0566)76-2504
明川支院	11日・19日※・第4土曜日	豊田市明川町堂ノ脇1-2	☎(0565)67-2231
佐屋支院	4日・13日・19日※	愛西市大井町浦田面296	☎(0567)32-1825
一宮支院	5日※・15日・25日	一宮市大江1-7-4	☎(0586)72-7208
西春支院	2日・12日・22日	北名古屋市九之坪東ノ川20	☎(0568)22-5813
岐阜支院	4日・14日・26日※	岐阜市切通7-15-22	☎(058)245-2939
笠松布教所	12日※	岐阜県羽島郡笠松町八幡町23	☎(058)388-2740
大垣支院	1日・11日※・21日	大垣市宝和町5	☎(0584)78-4854
関支院	5日※・13日・23日	関市西福野町2-15-11	☎(0575)22-0776
平賀支院	5日※・15日・25日	関市市平賀2-13-2	☎(0575)23-3771
郡上八幡支院	8日・12日※・22日	郡上市八幡町小野7-21-3	☎(0575)65-3933
四日市支院	5日※・13日・22日	四日市市赤堀2-4-7	☎(059)352-3633
上野支院	1日・3日※・11日・21日	伊賀市上野向島町3-4-75	☎(0595)21-0127

京都支院	1日・11日※・20日	京都市上京区北横町360	☎(075)231-3437
高槻支院	11日※・21日	高槻市天神町1-9-2	☎(072)685-1003
大阪支院	第2日曜日・23日(1/28※)	大阪市此花区西九条3-4-41	☎(06)6465-5051
福井布教所	第3土曜日	あわら市春宮3-28-2	☎(077)73-5234
和泉支院	4日※・14日・22日	大阪府泉南郡田尻町嘉祥寺404	☎(072)466-3112
神戸支院	11日※・21日	神戸市兵庫区五宮19-17	☎(078)360-4884
淡路支院	5日※・15日・25日	南あわじ市神代国衙910	☎(079)42-0175
岡山支院	5日※・7日・23日	岡山市南区若葉町1-16	☎(086)262-0818
高知布教所	11日※	高知市上町5-5-39	☎(088)823-1983
福山支院	4日※・第3日曜日	福山市西町3-19-5	☎(084)921-3078
三原支院	第2土曜日・第4日曜日	三原市皆実2-9-22	☎(084)62-5087
安芸津支院	5日※・第4日曜日	東広島市安芸津町三津3765-3	☎(084)45-4012
坂支院	12日※	広島県安芸郡坂町坂東2-24-12	☎(082)885-1064
福岡支院	第1日曜日※・第3日曜日・15日	福岡市早良区城西2-11-37	☎(092)821-7975
壱岐布教所	13日・23日	壱岐市石田町池田東触1112	☎(092)44-5445
筑後布教所	第2日曜日※・第4日曜日	筑後市大字西牟田5954-11	☎(094)253-7273
天草布教所	1日	上天草市大矢野町維和1502-1	☎(096)458-0742
田川支院	第2日曜日・第4日曜日	田川市春日町7-30	☎(094)42-11819
名古屋地区	7日・17日・27日(1/29※)	名古屋市昭和区駒方町3-3	☎(052)831-7135
瀬戸布教所	5日※・19日・29日	瀬戸市東本町2-20	☎(0561)85-6860
亀岡布教所	12日※・26日	亀岡市篠町篠牧田73-1	☎(077)25-7807

※印は節分会

◎開始時刻等については、それぞれにお問い合わせください。(掲載順不同)

特別企画

聖の教え

(十四)

一念三千の事

一念とは、凡夫の一瞬一瞬の心のこと、その心に三千の世界をそなえるということ。すなわち、人が平常持ち合わせている心に、全宇宙の事象が具わっていると、天台大師が確立した法華經の最高教理。

◇法に合せば、最初の一念展轉して色報をなす、是を以て外に全く別に有るにあらず、心の全體が身體と成るなり。相構えて各別には意得べからず。譬えば是水の全體寒じて大小の氷となるが如し。仍て地獄の身と云て、洞然猛火の中の盛なる焰となるも、乃至佛界の體と云て、相莊嚴の身となるも、只是一心の所作なり。之に依て惡を起せば三惡の身を感じ、菩提心を發せば佛菩薩の身を感じるなり。是を以て一心の業感の氷に閉ぢられて、十界とは別れたるなり。故に十界は源其の體一にして只是一心なり。一つものにてありける間、地獄界に餘の九界を具し、乃至佛界に又餘の九界を具す。是の如く十界互に具して十界即百界と成るなり。此の百界の一界に各十如はあるが故に、百界は千如是となる。則ち此の千如是を衆生世間にも具し、五陰世間にも具し、國土世間にも具せるが故に、千如是は即三千となるなり。此の三千世間の法

門は、我等が最初の一念に具足して全く闕減なし。此の一念即色身となる故に、此の身は全く三千具足の體なり。是を一念三千の法門と云うなり。之に依て地獄界とて恐るべきにあらず、佛界とて外に尊ぶべきにあらず、此の一身に具して事理圓融せり。全く餘念なく不動寂靜の一念に住せよ。

總在一念鈔 二一六頁

◆法華經の餘經に勝れたる事何ごとぞ。此の經に一心三觀一念三千と云うことあり。

一念三千法門 二〇八頁

◆一念三千の觀法に二あり。一には理二には事なり。天台傳教等の御時には理なり、今は事なり。觀念すでに勝る故に大難又色まさる。彼れは迹門の一念三千、此は本門の一念三千なり。

治病大小權實違目 一九九九頁

◆宗玄大徳

水行や断食の苦行も悟りなくば無意義なり 「一念三千を識らざる者には、仏大慈悲を起して、五字の内に此の珠を裹み、末代幼稚の頸に懸けさしめたまう」とは、日蓮聖人の觀心本尊鈔に説かれたるところであります。

私わたくしはかつて、名古屋なごや市本立寺しほんりゅうじ十四代だいの住職じゆうしやく、名倉順慶師なくらじゅんけいしに一念三千ねんさんぜんについて尋ねましたが、同師どうしの答えはすこぶる簡単かんたんで、ただ十界互具かいごぐ・百界千如かいごぐであるとのみで、その余よのことにわたっては何も教おしえてくださらなかったのであります。なるほど十界互具かいごぐ・百界千如かいごぐについては、日蓮聖人にちれんしょうにんの観心本尊鈔くわんしんほんぞんしやうにも説とかれていますが、私は、これが現在のわれら衆生しゆじやうに對たいしていかなる關係かんけいにあるのか、ということが知りたかったのであります。今いままでにすでに數十人すうじゆの僧侶そうりよにこれを尋ねたれども、私わたくしがなるほどと合点がってんするように教おしえてくださった方は一人もなかったのであります。その頃ころ法義ほうぎの解釈かいしやくで有名ゆうめいなる名倉師なくらしさえ、私の悟わたくしれるようには教おしえてくださらな

い、この上うへは自力じりきに依よりてもこれを悟さとらんと志こころざし、水行すいぎやうでも断行だんこうして悟さとらんものと思おもい立たったのであります。

以来いらい、梶下知多郡阿久比村がけんかちたぐんあぐいむら、臥龍山がりゆうざんにおいて一か年半ねんはん、引続ひきつづいて西加茂郡藤岡村にしかもぐんふじおかむら、柿野かきのやまの山やま奥おくにて一か年半ねんはん、都合三か年間水行ねんかんすいぎやうを致いたしましたが、ある日ひのこと、誰言だれいう者ものも無なきに私わたくしの耳みみに「汝なんじはすでに満三年間水行まんねんかんすいぎやうをなせり。この三年間ねんかんの水行すいぎやうに依よりていかなる効果こうかがあつたか。いかなる悟さとりができたか。今日限きょうかぎり止やめるがよからう」と聞きこえました。

この言葉ことばを聞きいて考かんがえるに、私わたくしは三年間一度も湯ゆに入はいらず水行すいぎやうに精進しやうじんしたが、なるほど諸天しよてん善神ぜんじんの仰おほせの如ごとく、何なんの得とるところもなかったのです。そこで、さらに悟さとりを開ひらかんと沈思黙ちんしもつ考こうしたのであります。その時ときまた声こゑあつて「汝なんじは棺桶かんおけを作つくつてその中なかに入はいつて考かんがえよ。し

かし棺桶に入ったら世の人は汝を狂人と言うであろう。棺桶に入ったつもりで押入に入って考えよ。水行するのは魚の真似、魚は水の中に住みて水を離るれば死するのだ」と聞こえました。この言葉を聞いて水行はプツリ止めてしまいました。そうして諸天の仰せの如く棺桶に入つたつもりで考えました。かくして数日を経て悟りました。

「なるほど水行は魚の真似、断食は蛙や蛇の真似だ。彼らは水の中に常住し、また求めずして断食をさせられる。いかに冷たくともその水を離るれば死ぬ。また、空腹となれどもあえて食するあたわざるは、実に気の毒なものだ。彼もまた一つの魂を持っていると思えば実に苦しいことであろう。我々も彼の如く苦しまざるべからざる悪因あるにもかかわらず、幸いに人である。仮に水行をしても止めたい時にそれを止め、断食しても、喰いたい時に食することができるとの思えば実にありがたいことではないか」

かく悟ればさらに、

「我々は日常衣食に不足を言うべきでない。もし彼の如く、畜類・魚類であったならば常にその苦を受けねばならぬ。それは過去の悪因故であるが、幸いにして未だその苦しみを受くるに至らざるは、善因のありしたためか、実にありがたい。なお未来かかる苦を招かざらんには、善根を積まねばならぬ。無為に暮らさば善芽は生ぜず、苦の世界の流転を免れぬ。善根を積まば喜びの境界に到るは当然の理」と悟り得ました。

かく悟り得れば、我等の一念に三千の世間も現すべきものぞと考えると共に、いかに百年の水行や断食の苦行を重ねるとも、諸天善神の仰せの如く、もし悟りを得なかつたなれば何にもならぬことと思ふに至つたのであります。この悟りを得さえすれば、水行や断食の必要もないのであります。幸いにも諸天善神にこの理を教えて頂いたことは、誠にありがたいことだと思ひました。

世の中にはこの意を解せずして、水行や断食をなす人々がありますが、誠に無意義のことと思ひます。

十界互具の理 さて一念三千とはいかなることでありましょうか。字句の如く、一つの思いに因つて三千種の世界を生ずるといふことであります。その三千種の世界とは何かと申せば、もし我々が一度怒れば地獄、貪れば餓鬼、愚痴多きは畜生、曲がり諂らえば修羅、平らかにして進歩なきは人、喜びは天上、仏の善き道を尋ね聴くは声聞、飛花落葉を見て世間の無常を悟るは縁覚、仏となるべき道を行なうは菩薩、すでに菩薩の道を行じて解脱し、一切衆生を教化して無上道に到らしめんとするは仏であります。

この十の心遣いに因り同じ仏性の所有者でも、各々なせし心遣いに従つて異なる身を生ずるのであります。この十種の世界の者、例えば仏界に在る者も、いったん怒れば地獄の因を作

ります。地獄界の者も菩提心を起せば仏界ともなるのです。例えばいかなる大悪人もなお妻子を慈愛するが如きは、いわゆる菩薩の一示現であります。かの悉達太子（お釈迦さまの幼名）が、人界より出て難行苦行の後、ついに仏身を成じ給いしは、人界に仏界あるの例証であります。

十界個々の者また、各々の心遣いに因りて各々十種の界を生ずるのであります。十界互具とはこの理にして、一念はついに百界を生ずるのであります。

百界千如の理 この百界の個々に、十如（相・性・体・力・作・因・縁・果・報・本末究竟等）法華経・方便品）を具え持てるのであります。

「如是相」とは、過去すなわち、現在に至る間の一念に因りて行ぜられし結果の相で、これは外より見て面貌の別を生じ、その物々の形を現わして外に紛れざること。「如是性」とは、目には見えざれども、各々具え持てる性分あるを言い、「如是体」とは、身と心と共鳴れる主質を言うのであります。すなわち我々に四肢五根あるが如しであります。「如是力」とは、相及び性を有する体に巧能力用を有するを言い、「如是作」とは、あるいは怒り、あるいは笑い、あるいは事を成ずる等の作用をなすを言うのであります。「如是因」とは、前の世すなわち、過去の因に因りて後の果報を得る種を言い、草木の種子を下す如く、今の善悪につきて未来の

修因をなすことを言うのであります。「如是縁」とは、前の作用を助ける縁を言います。悪をなす時は悪友が縁となり、善をなすには善知識が助縁となるが如くであります。「如是果」とは、善悪の縁に因って行ぜし結果を言い、「如是報」とは善悪の報いを言うのであります。苦楽・貧富の差別有るは、皆これ報いであります。しかして、初めの相を基となし、後報を受くるを「如是本末究竟等」と言うのであります。

かくの如き十如は、百界の各々のものにこれを具する故に、千界となります。これを百界千如と名付けるのであります。

この千界がさらに、過去の二因を持ちて十種の因果不同なる「五蘊世間（色・受・想・行・識）」に有り、また、現在の五果、現在の三因、合わせて八果に因って十果の衆生各々異なりたる活動をなす「衆生世間」にも有り、未来の両果は十種の所居にして、すなわち「国土世間」と名付けられるこの世間にも有るのであります。以上合わせて、三千種の世間を現ずるは次の如くであります。

一念×十界×十界×十如是×三種世間 || 三千種世間

十二因縁の理 しかして三種世間の内、五蘊世間の二因を「無明」と「行」と言い、衆生世間の八果を「識・名色・六入・触・受・愛・取・有」と言うのであります。そして、国土世間の

両果は、「生・老死」であります。この十二を合わせて十二因縁の觀法と名付けるのであります。

「無明」とは、過去の煩惱の迷いの心暗くして明らかならざることを言います。

「行」は、過去の迷いの心に因りて善悪の行業を作りしこと、すなわち過去の造業を言うので

あります。「識」とは、過去の無明と行とに因りて現在に初めて母の胎内に入る時の五蘊（色

・受・想・行・識）を言うのであります。また五陰とも言います。「名色」とは、胎内にて心

と身とのできたることであります。名のみにて色なき者なれば、名と云うのであります。身は

色・形ある者故に色と言ひ、名と色のみにて未だ眼・鼻・手・足も無きを名色と言ひのであり

ます。「六入」とは、眼・耳・鼻・舌・身・意の六根ができることを言うのであります。「触」

とは、母の胎内より生まれ出て、二、三歳の間はただ物に触れるのみなる故に触と言ひ、火は

熱しとも知らず、水は冷たしとも知らず、刀は人を切るものとも知らざる時代を言うのであり

ます。「受」とは、五、六歳より以後、ようやく六根に色・声・香・味・触・法の六穢を受け

て苦樂を弁ずる故、受と言ひ、寒熱を知るといへども、深く六穢に著せざる少年の期を言うの

であります。「愛」とは、年齢十五、六歳以上に達し、資具その他の六穢を愛欲し、五欲に貪

著するを言ひ、「取」とは、諸々の境界を得んがために普く馳求し、自分の好みに任せ、六穢

を求めて目には色を貪り、耳には声を貪り、諸々の業を造らんとする煩惱の取著を言うのであ

ります。「有」とは、受、取の煩惱に因りて諸々の業を作りつつ、未来の果報をば現世にその身に有することを言うのであります。「生」とは、現在の業に因りて未来に母胎に託生することを言い、「老死」とは、未来世において託生以後、年老いて死するまでを言うのであります。

理・事、二の観法　かく人生は、その一念に因りて事を作し、因を作つてゆくのであります。これが善因なればよけれども、悪の因を作りたる場合は、その因に因りて悪の報を受け、我が身を苦しめ、さらに、その因に因りて未来また、母の胎内に宿り、出生して六穢を受け、悪の因を作り、ついに老死・憂悲・苦惱し、また生まれは未来永劫、苦しみを受けねばならぬのであります。しかるに、その間にも善因あらば、その因に因りて仏と成ずることもできるのであります。

かくしてこの「因果の二法」を知らざれば、六道を車輪の如く輪廻するのであります。悟りたる者は四聖道に入り、終には仏を成ずるのであります。この階級を十に分かちしものを十界と名付け、十の体質の差異を十如とし、かくして六道を輪廻して苦を受け、楽を受ける間を十二に分かちて十二因縁の観法となし、またこれを三種の世間に分かつのであります。

しかして、この理を研究しさえすればよいと単に理屈のみに留めるを「理の一念三千」と言うのであります。しかし、理屈のみにて悟りがなければ何等の効果は無いのであります。

日蓮聖人はこのことにつき特記して、「一念三千の観法に二あり。一には理、二には事なり。天台伝教等の御時には理なり、今は事なり。観念すでに勝る故に大難又色まさる。彼れは迹門の一念三千、此は本門の一念三千なり。天地はるかに殊なりことなりと御臨終の御時は御心得あるべく候」(治病大小権実違目)と申しておられます。

もし一念三千の真義を知りてなお、悪の因を植え付けることは、その報いの恐るべきぞと悟りて常に精神修養をなし、怒らず、貪らず、愚痴を言わず、他の人をも指導してその修養を実行せしめ、行住坐臥、妙法蓮華經と唱うるなれば、十二因縁を流転し、六道を輪廻することより離脱して、必ず仏界、すなわち最上の境界に到達することができるのであります。

十二因縁流転の様を申しますならば、無明なるがゆえに行に縁となり、行は識に縁となり、識は名色に縁となり、名色は六入に縁となり、六入は触に縁となり、触は受に縁となり、受は愛に縁となり、愛は取に縁となり、取は有に縁となり、有は生に縁となり、生は老死・憂悲・苦悩に縁となるのであって、無量の劫を経るとも、この流転より離れることはできないのであります。

一度この恐るべき流転を悟りて、無明とて過去における煩惱の迷いをみ仏の教えに依つてよく断絶し、その無明を滅すれば、行滅し、行滅すれば識滅し、識滅すれば名色滅し、名色滅すれば六入滅し、六入滅するがゆえに触滅し、触滅すれば受滅し、受滅すれば愛滅し、愛滅すれば

ば取滅し、取滅すれば有滅し、有滅すれば生滅し、生滅すれば老死・憂悲・苦惱を滅するので、これを還滅の十二因縁と名付け、仏となる者は、かく流転する煩惱を滅してゆく者であります。

事の一念三千に達せざるは末代の幼稚 世の人たちよ、この一念三千を知りて生死流転の有様を悟り、無明の煩惱を破すべく仏の教えを説の如く実行せられよ。かく一念三千の真義を悟つて実行する者こそ、実に事の一念三千を悟れる者と名付け、これを聖人とも名付けるのであります。いかに理論的弁論をなすに長けたればとて、理の一念三千に留りて事の一念三千に達せざるは、いわゆる末代幼稚の輩で、成仏おぼつかなしと断言してはばからぬのであります。「無明」を破するものは、妙法蓮華經の五字に外ならぬのであります。この外に生死を離れ、仏界に到るの法は無きものぞとは、仏説の如くであります。

この妙法蓮華經は、諸仏の万行万徳の力と徳を集めた如意宝珠であります。また、これをわかりやすく説明したものは、法華經二十八品六万九千三百八十四文字であります。この文字は、妙法蓮華經という諸仏の眼目を説明したもので、日蓮聖人はこれにつき「法華經を読み奉り候いなば、御經の文字は六万九千三百八十四字、一一の文字は皆金色の仏なり」（単衣鈔）と仰せであります。

しかるに、本門は下の十四品、すなわち涌出品より勧発品までで、上の十四品、序品より安

樂行品までは迹門なれば用うべからず、などと申す人もあるようですが、これは誤りもはなはだしいのであります。「法華経は一切の諸仏の眼目、教主釈尊の本師なり。一字一点も捨つる人あれば、千万の父母を殺せる罪にも過ぎ、十方の仏の身より血を出す罪にも超えて候いける故に、三五の塵点をば経候いけるなり」(兄弟鈔)。

現在(げんざい)はもちろん私の滅(めつ)した後(のち)においてもこの理(り)を忘れず、生死流転(しじりてん)を離(はな)れて仏界(ぶつがい)に到(いた)らんとする人は、妙法蓮華経(みょうぼうれんげきぎょう)の五文字(ごもじ)、法華経(ほけきぎょう)二十八品(にじゅうはちほん)六万九千三百八十四文字(もろもじ)を用(もち)い、實地(じつち)に活用(かつよう)して頂(いた)きたいのであります。もしこの言葉(ことば)を用(もち)いざるの輩(やから)は、わが弟子(でし)ではありません。決して生死(しじ)を離(はな)れ、妙覚(みょうかく)の山(やま)に昇(のぼ)る事(こと)はできません。

皆(みな)さん、どうかこの恐(おそ)ろしき生死流転(しじりてん)を離(はな)るるの修養(しゅうよう)を片時(かたとき)もお忘れ(わす)れなきように、ますます精神修養(せいしんしゅうよう)あらんことをお願い(ねが)い致します。

村上先生御法話集(一) 六九頁

總在一念(そうがいねん) 總(そう)は一念(いねん)にあり、と読む。

一心三觀(いっしんさんくわん) 天台大師(たいたいだいし)が、法華経方便品(ほけきぎょう べんぽうひん)の十如是(じゅうじゆし)によつて大成(たいじやう)した最も重要な実践的修行法(じっせんてきしゆぎやうほう)。一心(いっしん)とは人が常に起す一念(いねん)。三觀(さんくわん)とは空(くう)・仮(か)・中(ちゆう)の三諦(さんてき)の理(り)を觀念(くわんねん)すること。三諦(さんてき)とは空(くう) (万有(ばんいう)の一切法(いっけつぽう)は実体(じつたい)なくしてすべて空(くう)であるという理(り))。仮(か) (空(くう)であるというも差別(さべつ)の事相(じじやう)は現存(げんじゆん)する故(ゆゑ)、空(くう)に非(あら)ず仮(か)有(いう)なりという理(り))。中(ちゆう) (空(くう)仮(か)の両極端(りやうごくたん)に偏(へん)すべきでない、空(くう)仮(か)に非(あら)ず、而(しか)も空(くう)仮(か)あり、須(す)らく空(くう)仮(か)に超絶(ちやうてつ)した綜合的(くわんごうてき)な中正(ちゆうじやう)であ

るとい理(り))。この三諦(さんてき)はすべての思想(しゆきやう)を綜合(くわんごう)したもので、いかなるものにも存在(そんざい)する。そして、個々(こごご)に独立的(どくりてき)に相反(ごうはん)して並存(へいじゆん)するのではなく、三即一(さんじついつ)、一即三(いつじつさん)の不離(ふり)の円妙(えんめう)な融通自在(じゆんじゆざい)の關係(けんが)に成立(ていりやう)された円融三諦(えんじゆさんてき)の理(り)として存(ぞん)するのである。更に、この円融三諦(えんじゆさんてき)の理(り)を實踐的(じっせんてき)に觀念修行(くわんねんしゆぎやう)するについて、特に心(こころ)を對象(たいさう)として、我が一心(いっしん)に三諦(さんてき)の不離円融(ふりえんじゆ)の妙理(めうり)を觀念(くわんねん)するを一心三觀(いっしんさんくわん)という。此(こゝ)の觀(くわん)が完成(じやうせい)した時(とき)、仏智(ぶつち)の世界(せかい)は展開(てんがい)されるという。

とくのはの記

節分の意味

「福は内！」

子どもたちの元気な声が家中に響きます。

「豆まきって楽しいね」

「豆まきの後に、年の数だけ豆を食べるのもうれしいね」

「お父さん、なぜ節分には豆をまくの？」

「昔の暦では立春が※お正月で、人々はそのときに新たな年の運勢を占い、悪い鬼が家に入ってこないようにお払いをしたんだ。豆をまくのは鬼を追いかう手段なんだね。でもね、お寺のお上人さまは少し違うことをおっしゃっていたな…」



講日のご法話でお上人さまはホワイト・ボードにこんな言葉をお書きになりました。

フクワウチ オニハソト
富久者有智 遠仁者疎途
とみをひさしうするものちあり じんにとおさがるものはみちになうとし

「富を得るのが福ですが、福を得るには慈悲・至誠・堪忍の三徳が必要です。三徳の心を持たない人は福に到る道がわかりません。節分は単に豆をまくだけでなく、自分の日々の行いを点検するためにあるのですよ」

御開山上人はこの点について『続・現代生活の指針』の中で具体的に説明されています。

「福というのは、人を助け救う力とその働きをいうのです。人を助け救う智慧を得なければなりません。この本を知らず



して福は得られません。人を助け救うにはまず家族の者からだんだん広く他人に及ぼして、物の施し、人に慰安を与える心の施し、教えの施しをして、人の苦悩を救い、永遠の樂しみを得させるように働かなければなりません。こういう働きを日常生活、各々の職場を通じて働きかけて行えば、必ず永遠の富と幸福を得るのであります、家内は安全、商売も繁盛請け合いです。

人に慈悲を施すことを知らず、慈悲に遠ざかる者は、みな自己を中心とした考えばかりになって『途』でない行いをしているので、鬼ですから、世の中の人から忌み嫌われ、自分も難儀をせねばならぬ、不幸の人となります」

（『続・現代生活の指針』45頁）

「家族やお友だちに優しくできないときは、自分の中に鬼がいるってこと？」



「自分に角が生えたら、家族はもちろんのこと、友だちも怖
がって寄ってこないよね。そうしたら寂しいな…」

「そうだね。だから家族はいつも仲良くしようね。そしてお
友だちにも思いやりをもって優しく接するように心掛けよう。
でも、時に三徳の実行を忘れて自己中心的な考えで行動して
しまうこともある。だから、節分で改めて、日頃きちんと三
徳の実行ができているかなって振り返ることが大切なんだね」
「うん、みんなが笑顔になれば、自分もうれしいもんね」

今の時代、自宅で豆まきをする家庭も少なくなり、文化が
風化してしまうようで寂しさを感じます。また多くの寺院で
行う節分行事も、単なる季節の風物詩になってしまっている
ようです。法音寺にご縁のある私たちは、しっかりと節分の
意味を理解し、心を正して三徳の実行を心掛けましょう。

※立春＝春のはじめの日。太陽暦で二月三、四日頃。



読者の声

お題目のありがたさ

永田洋子（岐阜支院）

お題目で、不思議な体験をしました。

講日にお上人さまより『法音』を二冊戴き、「どなたかに読んでもらってください」と言われました。一冊は隣の家の方にもらっていただきましたが、もう一冊残っていました。

その日、ダスキンのスタッフAさんがモツプの交換のためお昼頃に来られました。世間話をしていると、Aさんは娘さんのことで相当悩んでいらっしやるようでした。「私ที่บ้านに帰っても口もきいてくれないの。どうしたらいいかしら」と言われるので、「お母さんのあなたが落ち込んでいたらだめよ。元気な顔で帰って、娘さんと仲良くしてほしいわ。この本をプレゼントするから読んでみて」と言って『法音』を手渡しました。Aさんは素直に受け取ってくださいました。

いつもお寺で、〴〵周りの人のためにお題目を唱えましよう〴〵とお聞きしています。そこでAさんが娘さんと仲良くできるよう、仏さまに少しのお徳を積んでお題目を唱えさせてもらうことにしました。日頃なかなか周囲の人のために実行することができないので、今日はAさんのためにも思い、いつもより多く、お題目を唱えさせていただきました。

一カ月後、再びAさんがモツプの交換に来られました。そして帰り際、「永田さん、先日お宅へ伺った後、信じられないことがありました」と言って、お手紙をくださいました。

その手紙には次のように書いてありました。

「六月二十三日、木曜日、今日モツプ交換に伺いました。今、夕食が済み、ペンを執りました。今日も、

相談役になってくださったってありがたい。あの後、車に戻り、娘に夕食を作ってもらおうとメールを入れました。いつもなら、素っ気ない『わかった』のみに、なんと今日は『はい！』と返信が。もう、びっくりです。このような返信は初めてです。4時頃帰宅したら、すでに洗濯物は取り入れられていて、収納済み。これまでの娘なら考えられないことです。夕食後、二階に上がった娘が、ダダダーと降りてきて、『派遣会社から電話があった。紹介してもらえるところがあるらしいから近々行ってくる』と、うれしそうに報告してくれました。頭の中が凝り固まっている時、いつも永田さんにお会いでき、しかも、今日は本当に、〃良い波〃がやってきて、これは偶然ではない気がします。

戴いた冊子を読み始めました。とても納得がいくことが書いてあり、ゆっくり読ませていただきます。いつも二階の自分の部屋にばかりいる娘は、今、珍しくリビングで、主人とテレビを観ています。その姿を横目にこれを書いていきます。お礼とご報告でした。Aより」

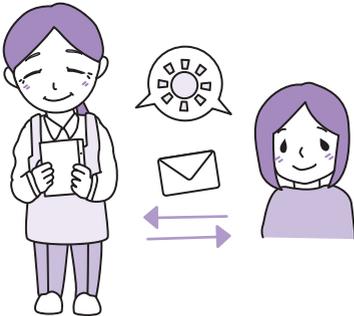
私もびっくりしました。あの日、Aさんが帰った後、〃娘さんと仲良くなられるように〃と唱えたお題目で、こんなにも大きなお徳がいただけで、Aさんに喜んでもらったことを、とてもうれしく思いました。

『法音』を気持ちよく読んでもらえ、また、お題目によってAさんと娘さんの心が変わるきっかけになったこと、本当に良かったと思いました。その後もAさんは、「永田さん、娘も元気に仕事に行っているわ」とうれしそうに話してくださいます。これからも周りの人たちの幸せのためにお題目を唱え、少しでもお徳を積むことに精進させていただきます。

起きいでて清き気をすい題目を

となるる朝ぞこころうれしき

《御開山上人御詠》





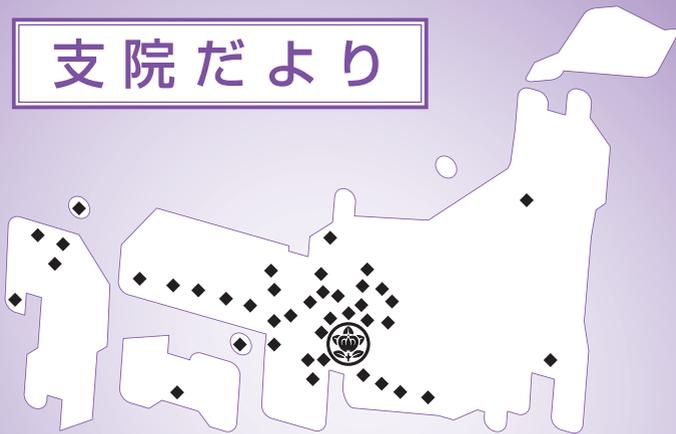
のりのりとも西に東に 転法輪



『汝等如來の滅後に於て、應當に一心に受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行すべし。所在の國土に、若しは受持・讀誦・解說・書寫して、説の如く修行することあらん。若しは經卷所住の處、若しは園の中に於ても、若しは林中の中に於ても、若しは樹の下に於ても、若しは僧房に於ても、若しは白衣の舎にても、若しは殿堂に在つても、若しは山谷・曠野にても、是の中に皆塔を起てて供養すべし。所以は何ん、當に知るべし、是の處は即ち是れ道場なり。諸佛此に於て阿耨多羅三藐三菩提を得、諸佛此に於て法輪を轉じ、諸佛此に於て般涅槃したもう』

〔妙法蓮華經・如來神力品第二十一〕

支院だより



功德を積んで良い年にします

平成28年最後のお勤め「晦日参り」

が12月31日午後4時より、山首上人さま
まで導師のもと厳修され、約200名



みそか
本山の晦日参り

の檀信徒の方々が参詣されました。

法要後、山首上人さまはまず、皆さんへ今年一年の労いのお言葉を掛けられ、続いて「新しい年がどのような年になるかと考えるのではなく、善根功德を積んでどのような年にしようと考えていることが大切です」とお話しくださいました。皆さん新年に向け、心新た

京都支院 〓 顕修院日達上人御祥月命日法要

〓 金言〓 を思い起こしました

12月9日、静岡・新庄上人をお迎えして安藤上人導師のもと顕修院日達上人御祥月命日法要が営まれました。

ご宝前には日達上人への御報恩のお塔婆が立てられ、中央にはにっこりと微笑んでいらつしやる日達上人のご遺影が飾られています。

午後2時、定刻となり法要が始まり

にお誓いをされたことと思います。終了後、「お屠蘇にお使いいただけるように」と、参詣者は小瓶の日本酒を1世帯につき1本頂戴しました。

このご供養は平成14年より始まりました。会議の席で日達上人が「お正月前だから、お酒でも出そうかね。それならおめでたい銘柄が良いね。」開運〓というお酒があるから」とおつしやるれ、この銘柄に決まりました。皆さんも毎年心待ちにしていらつしやるようです。
(文責・在記者)

ました。読経が静かに流れる中、信者さん一人ひとりが感謝の心を込めてお焼香されました。

法要後に新庄上人より「信仰の世界に独学はありません。師匠から戴いた法華経（法音寺三徳）の教えを実行していけば必ず仏に成れます」とお話しいただきました。

その後、皆さんはたくさんのご供養を戴かれ、帰途に就かれました。

日達上人が御遷化されてから丸4年になります。まるで昨日のことにように感じます。日達上人の「生きている間にしか徳は積みません。どうか生

豊川支院 11 年末行事あれこれ

〳 煩惱消滅・罪障消滅。徳を積みます〳

【餅つき大会・10日】

平成28年も残すところ後わずか。しつかりと〳今年の罪は今年の内に！〳片づけておきたいものです。

午前10時30分、本堂でお勤めを済ませ、餅つき大会が始まりました。ひんやりとした北風が時折、白の周りを走りますが、ご参集の76名は、気合い十分。薪は赤い炎を揺らし、ふっくらおいしそうに餅米を炊き上げました。

開始の一打は三宅持温上人です。

「南無妙法蓮華経、ソーレー。南無妙法蓮華経、ソーレー」

杵が振り下ろされる毎にお上人の顔

きている間に徳を積んでください」という金言を今一度、思い起こします。

「しつかりとお徳を積むことができますか？」と見つめ直し、徳を積むことに精進させていただくことをお誓いしました。(通信員 牧野伸江)

は赤くなり絶好調。搗き上がったお餅は純白で、太陽を照り返し光っていました。

子ども会・青年会・婦人会、そして、おめでたい新婚さんへと打ち継がれて10臼。カレーやキムチ、納豆・きな粉で振る舞われ、草餅・餡ころ餅のお土産も戴きました。子ども達にはクリスマスプレゼントもあり、お腹も心も喜びでいっぱい。今年一年のどんな思い出を、お餅に込めたことでしょうか。

【孝祥院妙好法尼祥月命日法要・20日】

午後7時45分、三宅上人導師のもと上野・橋本上人をお迎えして、孝祥院

妙好法尼(大高妙高法尼) 御祥月命日法要が営まれました。

読経の流れる中、参詣の皆さんは法尼のお姿を想い出し、御報恩供養のお焼香をされました。

「法尼は機関車みたいだった」とある方が言われました。早朝5時、ご自分のお部屋から〳ダダダ〳と廊下を渡り写経室へ。疾風のように納経を書き上げると、「健康のため」とおっしゃりながら河川敷一周を国土成仏のお題目行脚。お寺に戻られると、駆け上がるようにご宝前に昇られ朝勤。題目はとうとうと発せられ、木鉦の音は車輪のごとく響きました。今も支院の廊下で「煩惱消滅・罪障消滅、煩惱消滅・罪障消滅。徳を積まにゃ」のお声と、賑やかな足音が聞こえてきそうです。

【合同米題目・23日】

午後8時、各地区の皆さんが参集され合同米題目が行われました。三先師・日達上人の御報恩謝徳、日義上人(小森啓学上人)・孝祥院妙好法尼(大高法尼)の御報恩供養、参集者各々の

罪障消滅のお題目が、ひと粒ひと粒、心を込めて唱えられました。

【年末大掃除・25日】

クリスマスの日曜日、街は華やいで浮かれ気分の前9時、本堂には敬虔な30名の皆さんが、大掃除のご奉仕にお集まりくださいました。

本堂・孝祥院と手際良く掃除を進め、境内・駐車場は根こそぎの草取り。窓から陽がキラキラと射し込み、支院を包む空気は清々と甘い香りが漂いました。

【年始飾付・30日】

午前9時、ご宝前に祭壇が生まれ、鏡餅が飾られました。金銀の水引の扇も広がり華やかです。門松の緑は鮮やかに結ばれ、吹き流しの五色が大題目旗に映え、春を迎える準備は整いました。

【大晦日参り・31日】

「つらつらおもうに、我等無始よりこのかた、無明の酒に酔いて、造るところの罪業無量無辺なり」

午後4時、大晦日参りが執り行われ

ました。本堂・位牌堂・孝祥院へと続き、総締めは一年の反省として、今年から「懺悔文」が、お上人の先導で唱和されました。仏さまに導かれ、山首

安城支院 Ⅱ 子ども会クリスマス会

優しい気分を分かち合いました

恒例となった子ども会のクリスマス会が12月10日に開催されました。

子ども会の日が近づくと、講日毎にお上人が「小さいうちからお寺に来て、縁をつなぐことはとても良いことです」と参加を促してくださいましたお陰で、元気な子ども達がニコニコ顔で集合してくれました。

初めに本堂で勤行。慣れてきたのか、最近はお経の声もとても大きく響きます。その後、お上人からご挨拶いただき、盛りだくさんの内容のクリスマス会がスタートしました。

今日は、昭徳会・光徳保育園の先生が来てくださり、まず3名の先生が手品を披露してくださいました。「わあ

上人さまにご守護いただき、幸せな気持ち」が心の底から湧き上ってくる大晦日となりました。

(通信員 鈴木康昭)

ー「すごい」と拍手喝采の会場。

ベテランの先生方の進行やお話はもちろん、子ども達との掛け合いは、スタッフにとつて大変勉強になります。引き続き、先生方による人形劇「ウサギとカメ」が披露され、全員で鑑賞しました。途中、カメさんが一生懸命にお山を登る場面では「頑張れ、頑張れ」と子ども達の掛け声が入り、優しい気分をみんなで分かち合いました。

参加した子ども達、お父さん、お母さん、おじいちゃん、あばあちゃん、スタッフ全員に先生方から鈴が配られ、先生のピアノ伴奏に合わせ、鈴を振りながらクリスマスソングを楽しく歌いました。膝の上にお孫さんが座り、楽

安城支院の子ども会クリスマス会



しくスイングする姿が何組もあって、その光景はとても微笑ましいものでした。また鈴の音がお寺全体に響き渡り、魔法がかかったようなやさしい雰囲気に入れまれ、みんなの心がほっこり温か

くなりました。

次は工作タイム。子ども達は自分で選んだ絵やシールなどを貼って紙のブーツを作り、その中に好きなお菓子を入れました。とても手の込んだ素敵なお菓子が完成しました。

次は本堂のお掃除。一年間お世話になったお寺に恩返し。心を込めて子ども達が畳を拭いてくれました。すると、どこからともなく運動会の徒競走の音楽が…。これもすっかり恒例となった雑巾レースの開催の合図です。まず小学生の子ども達が一列に並び、「よお

田川支院「山首上人さま」親修・大黒祭

木剣の音が全身を駆け巡りました

12月10日、山首上人さまがご親修くださいました。

午後1時、大黒・鬼子母尊神祭が厳修されました。一年間、いろいろな思いが込められた一体一体がご香浴を受けられました。木剣の音が全身を駆け巡りました。

「いドン！」で飛び出た男の子の速さに一同びっくり。そして未就学の子どもの達のレース。一生懸命にゴールをめざしました。

その後、全員で研修棟に移動してシュークリームとジュースで和やかに歓談し、最後にこれもすっかり恒例となった紐引きプレゼントで、全員おもちやを獲得しました。

12月とは思えない、温かい色の夕日の中を子ども達は満面の笑顔で手を振りながら帰路に就きました。

(通信員 位田久子)

続いて、顕修院日達上人御祥月命日法要が始まり、参詣の皆さんしめやかにご焼香をされました。

山首上人さまは、村上先生は「いつも堪忍とおっしゃっていた」とお話しになり、「堪忍するが勝ちです。何か問題が起きても裁判はしない方がよい。

裁判は争いだから、よくありません」とご教示くださいました。

その後、特別加持をしていただきました。あれもこれもと盛りだくさんで息をつく間もないほどの日程でしたが、

一宮支院Ⅱ年末大掃除

老若男女の熱意が結集

12月11日、支院大掃除が行われました。師走に入った第2日曜日、「今年もお世話になった支院の清掃をしましょう」と老若男女の熱意が結集して始まりました。

三徳の道場である本堂をはじめ各所に分散。高い所は男性陣が受け持ち、高齢の方も「私達のできることで」と元氣いっぱいでした。本堂も入念に磨かれ、祭壇・外陣と隅々まで美しくなっていくのを喜び合い、清々しいお顔のお祖師さまも微笑んでいらっしゃるようでした。駐車場と外回り一帯も男性にお任せです。高所は若い人が率先して、排気ガスの汚れ落としにも大奮

本当にうれしい一日でした。

ご参詣の皆さん、ご香浴を受けられた大黒さま・鬼子母神さまとともにお徳をいただいたかれ、笑顔で帰途に就かれました。
(通信員 海野和子)

闘でした。見る見るうちに美しくなっていくのは心地の良いものです。女性陣が担当した厨房は油污れなどがひどく「もう少し。こっちもあっち

平賀支院Ⅱお楽しみ会

子どもにわかるように話せると良いな

12月11日午前10時より、青年会主催の子ども会おたのしみ会が行われ、併せて習字が行われました。

研修堂でお参りした後、先生役の婦人会員さんにお手本をお願いし、4歳から10歳までの8名の子も達が真剣な面持ちで筆を持ちました。小学2年

もね」と注意を払いながら掃除していくと美しくなって、「これでご供養の調理も気持ち良くやれますね」と笑顔も素敵でした。トイレもピカピカです。こうして一同の協力ですっかり美しくなり、気分も爽快です。会話も弾み、伊藤法尼も喜ばれ、帰りには、ありがとうのおみやげを戴き解散しました。支院も美しくなり、三徳の垢で汚れている私どもの心も、三徳の実行で日々磨くことが大切だと学ばせていただき、無事終了となりました。
(通信員 今枝文子)

生のO君は「むずかしい字に挑戦する」と言って「堪忍」と書きました。「上手ね」とほめられ、10枚ほど書き上げて満足そうでした。他の子ども達も「じひ」「まこと」「かんにん」と2、3種類書いて「うまく書けたかな」と、お母さんに相談。先生に筆の持ち方、

運び方のアドバイスを受けて納得の様子でした。

習字の後はお楽しみタイムです。30枚ほどの座布団を並べてテープでつなぎ、大きなサイコロを転がして人間双六で遊びました。

「ここで止まったら一回休み」「三つ進む」「犬のマネをする」などと書いた紙が座布団の上に裏返して置いてありました。8名全員が上がった頃にお昼となりました。

お庫裡さまの手作りの唐揚げ・おにぎり・けんちゃん汁などがテーブルに並びました。以前は親御さんと食べてい

郡上八幡支院「クリスマス会」

顔も心も笑顔いっぱい！

師走に入り、冬將軍の足音も聞こえ始めた12月11日午後1時より、支院恒例の親子クリスマス会が開催されました。

一足早いクリスマスに、子ども達もウキウキ気分。中にはサンタさんの赤

たお子さんが、今回はお友達同士で食べていました。果物・ケーキもいたでいて、作品もできてお腹も心も大満足の子も達。青年会のお兄さんから「次はお正月に新年祝祷会で会いましょう」と言われ、解散しました。

子ども達を見送りながらじじい・まこと・かんにん〴〵の意味を、子どもにわかるように話せるようにならなければと、次の課題をいただいた青年会員でした。

仏さまに見守られて、今年最後の子ども会も無事終了しました。

(通信員 加藤寧子)

い帽子をかぶり、クリスマススムードを盛り上げてくれる子もいました。とびつきの笑顔で走り回る子ども達の姿は、周りの人を和ませます。

お勤めから始まり、渡辺上人より「笑顔には二つあります。一つは、顔

の笑顔、もう一つは心の笑顔です。顔の笑顔と心の笑顔が一つになるように、大いに笑顔の預金をしていきましょう」と、紙芝居も織り交せてお話しいただき、保護者の皆さんも子ども達も楽しそうに聞き入りました。

お話の後は楽しいゲームの時間です。ビンゴゲームで景品を品定めしたり、じゃんけん列車でお菓子をもらったり、最後は全員で大根抜きゲームをしました。子ども達一人ひとりが大根です。お友達と手をしっかりつなぎ、引き抜かれないように力を合ませます。小さいながらも、必死にお友達を守ろうとする姿に感動します。子ども達も保護者の皆さんも笑顔いっぱいでした。

その後は、やつぱりケーキとジュースのおやつタイムです。食事中は、水を打ったように静まりかえります。あのエネルギーはどこへやら。

食事が済むと、子ども達は何やらソワソワと落ちつかない様子。何かの気配を感じたようです。そうです。サンタクロースです。みんな「サンタさ

「ん」と大きな声で呼び掛けると、大きな袋を担いだサンタさんが、一足早いクリスマスプレゼントを届けてくれました。子ども達はニッコニコです。

岡山支院Ⅱ支院御法推進大会

〳〵自ら誓って〳〵お徳をいただきましたしよう

12月11日午前11時より、梅田上人導師のもと先師・物故者・位牌堂各霊位の法要が営まれました。

法要が始まると、参詣の皆さんは感謝のお焼香をされました。

法要後、各委員より本山で行われた御法推進全国大会での取り組み、「私の誓願」の報告と御報恩納経百万巻に向けての報告がありました。

次に、梅田上人より「自説誓言」について「自ら誓って続けていくと徳をいただけます。『はい』と受けていけば良い方向にいけます」とご法話いただきました。その後、本山より戴いた御法推進大会でのDVDを観ました。

昼食は立食パーティーです。前日よ

顔も心も、笑顔いっぱいの子クリスマス会でした。

(通信員 八代哲雄 代 橋詰優子)

りご奉仕の方々によって準備されたお

福岡支院Ⅱ山首上人さま(親修・顕修院日達上人御祥月命日法要・大黒祭)

温顔に接して心が温められました

12月11日、顕修院日達上人御祥月命日法要に併せて大黒・鬼子母尊神祭が厳修されました。穏やかな晴天に恵ま

れ、本堂は247名の檀信徒で埋め尽くされました。日頃なかなか顔を合わせる事ができない、彦岐・筑後・天草の各布教所の方もご参詣になり、あ

ちらこちらで話に花が咲いていました。読経の後、大庭圓昭上人は「この一

年を振り返り、反省することも大切なことですが、良かったこと、ありがた

料理がテーブルに並べられ、乾杯の音頭とともにパーティーが始まりました。心ゆくまでご馳走をいただき、次はビンゴゲームです。空くじなしの楽しいゲームでした。

最後は本年の無事に感謝し、三徳の実行を誓ってパンザイ三唱をし、帰途に就きました。

(通信員 木村彰保 代 赤松伸夫)

かったことも思い出して感謝してください」とお話しくださいました。

続いて山首上人さまは、「情けは人のためならず、巡り巡って己が身のため」ということわざの真意を、日本と台湾の関係にふれ「苦しい生活を強いられていた台湾に赴いた日本人はさまざまな整備改革を行いました。この恩に報いたいという、台湾の方々の気持ち、東北や熊本に起きた災害の義援金という形で表されたのです」とお話

しくございました。
山首上人さまの温顔に接して心を温め、昼食に振る舞われた博多おでんで

体もホカホカ、三々五々家路に就かれました。
(通信員 大庭幸雄)

亀岡布教所Ⅱ顕修院日達上人御祥月命日法要

魂の向上をめざします

12月12日、三原・森野上人導師のもと、顕修院日達上人御祥月命日法要が厳修されました。本堂のご宝前に祀られた慈愛あふれる日達上人のご遺影の前で、常にご守護いただいていることに心より感謝し、御報恩謝徳のお焼香をさせていただきます。

法要後、森野上人より「笑顔で言葉かけをし、お題目を唱えて先祖供養をして、魂を向上させましょう」とお話しいただきました。

ご法話終了後の座談会での皆さんの

お話です。

○「友人が脳梗塞で倒れましたが、『一つひとつ喜べることを探そうね』と言っているうちに着実に良くなつて、お寺に来ることができました」

○「子どもが朝学校へ行くまでずっとゲームをしておりますが、この子に良い人生を送ってほしいという心で徳を積みます」

日達上人の温かいお心を頂戴し、明るい心で軽やかに家路に就きました。

(通信員 花崎寿美)

四日市支院Ⅱ顕修院日達上人御祥月命日法要

ご遺徳にふれたありがたい一日

12月13日、顕修院日達上人御祥月命

日法要が厳修されました。大塔婆が立

てられたご宝前にはお位牌とご尊影が祀られ、白百合等の美しいお花が供えられました。

午後1時30分、祖父江上人導師のもと法要が始まり、神力品の読経が流れる中、日達上人をお偲びするお焼香の列が続きました。法要に続き、日達上人特別御報恩謝徳の守護神授与が行われました。

祖父江上人は、日達上人ご自身の体験からのお言葉「心から信ずることで私達の力では計りしれないことが起きる」(昭和52年発行『法音』より)をひもとき、「慈悲・至誠・堪忍を実行するにも、信じる心で一生懸命させていただきます」のご法話くださいました。

続いて、初めてお越しいただいた渡辺堯学上人は、お父さまのご病気をきっかけにお題目を唱えることの大切さを実感されたことや、『一日一言』のお徳の大きさを理解され、この本がかけがえのないものになっていることなどをお話しくございました。

最後に、日達上人にお仕えになられた鳥田知教上人より、日達上人の日頃のお言葉やご教導の数々、目の当たりにされた見事なご教化のご様子などをお話しいただきました。日達上人をお偲びし、そのお言葉を引用されながらも、「徳を積むことは大切とわかっていても、『心が不満足』だと貪・瞋・痴の行いが出てきます。喜べることを見つけて不満足を満足にされると良いですよ」とお諭しく下さいました。そして、日達上人最後のご教化「生きていこう

一宮支院 山首上人さま、親修・顕修院日達上人御祥月命日法要

思い出の数々が脳裏に浮かびました

12月15日、山首上人さまにご親修いただき、顕修院日達上人御祥月命日の法要が厳修されました。

日達上人の御命日法要に山首上人さまご親修ということで、信徒の喜びもひとしおです。

ご宝前の真正面にお塔婆が立てられました。ご慈愛に満ちたにこやかなご

ちしか徳は積めません。『今日一日』と違って精進していきましょよ」と結ばれました。参詣の皆さん、何度も何度もうなずき傾聴されました。日達上人のご遺徳にふれ、この上ないありがたい一日となりました。

お帰りの頃は雨で小寒くなりましたが、ご供養のうどんが用意され、心身ともに温まりました。手作りの鬼饅頭などのご供養も戴かれ、皆さん今日の一日に感謝しながら帰途に就かれました。(通信員 服部薫 代 加藤成子)

遺影を拝して心も和み、お世話になった思い出の数々が脳裏に浮かびます。ありがたさを深めながら準備が進められました。

厨房では、ご奉仕の方々が調理してくださったお昼のご供養の温かい「おでん」が参詣者を待ちわびています。参詣に来られた皆さまも「参詣する

ことができ、山首上人さまのご法話も聞かせていただけて、ありがたいです」と笑顔いっぱいです。大垣支院の方々もお越しになり、喜び合っているうちに法要が始まりました。

山首上人さまの朗々たる御発声から、勧請・読経へと移り、一同の唱和も本堂いっぱい響き、御報恩謝徳の心を込めてお香が手向けられました。

山首上人さまは、「諸々の人の知恵を集めると良いというところ、いつも機嫌が良いリーダーになれば人が集まってくる。日達上人はそういう人でした」とご法話くださり、いつも機嫌が良いようにするのは修養であることを、いろいろな方の例を挙げてご教化くださいました。一同真剣な眼差しでうなずきながら、笑いもありました。

特別加持では、背中を力強く撰経で撫でていただいて、今年の罪障を吹き飛ばし、来年に向けての活力をいただいた心地で、皆さま「体が軽くなった」と喜び合われました。

法要と良きご法話で精神修養のできた尊い一日でした。

日達上人の最後のお言葉となりました「生きている間しかお徳を積むこと

平賀支院Ⅱ顕修院日達上人御祥月命日法要

『二日一言』は、この上ない喜びです

12月15日午後7時より、豊川・三宅上人をお迎えして、後藤上人導師のもと顕修院日達上人御祥月命日法要が営まれました。日達上人のお塔婆とご遺影を拝しますと、いつも私達を見守ってくださる眼差しがありがたく、心から御報恩感謝の念を覚えます。

読経の流れる中、参詣の皆さんお焼香をされました。法要後、後藤上人より「御法の縁をきつく結んで切れることのないように、永く御縁を保つようご精進ください」とお話しいただきました。

続いて三宅上人より「法音寺のみ教えは、因縁消滅ができるという教えです。怒る因縁・イライラする因縁を、

はできません」を貴重なみ教えとして、今日のご法話と合わせて日々実行し、精進することを誓いました。

(通信員 今枝文字)

自分の行いや心遣いによって良い因縁に変えていきましよう」とご教示いた

東京支院Ⅱ年末大掃除

本堂に、恩返しをする日です

12月17日の支院。

「あなたはこの一年間よくその任務を果たし、愚痴をこぼすこともなく黙々と責務を全うされました。ここに、感謝の意を表し：云々」

あなたとは窓ガラス・洗面所・トイレ・脚下の畳・三和土の床マット等々。

この日は、冬とは思えぬ暖かい陽光がきらめく絶好の大掃除日和。汚れを一身に引き受けていただいたお寺のすべ

だきました。

私達は日達上人の『二日一言』を読ませていただいております。日達上人のみ教えに今もふれられることはこの上ない喜びです。このみ教えを子や孫にも伝えていくため、心を引き締めなければと感じました。過去の罪障に加え、日々作る罪障を消滅することを誓いました。

(通信員 加藤寧子)

てに、恩返しをする日です。

午前10時、集合した30数名は、雑巾・バケツ・クリーナー・掃除機などを持ってあちらこちら飛び回りました。奥では位牌堂、外では水子地藏尊、そして植え込みもきれいにされていきます。てきぱきと作業する若者の姿は頼もしいかぎりです。

「お昼ごはんですよ」

まだ新築2年目。その上、先日の全

山一斉清掃奉仕の日にも掃除をしたので早々と終了です。

一汗かいた清々しさの中、みんなでいただく昼食のおいしさ、楽しさ。そ

の表情には、来年こそ黙々と三徳の実行を心掛け真の信仰の道を進みたい、そんな決意が浮かんで見えました。

(通信員 川合和美)

高槻支院Ⅱクリスマス会

良い因縁を結びました

12月17日、恒例の子ども会主催「クリスマス会」が開催されました。晴天に恵まれたこの日、子どもも8名、その親御さんたち5名で、今年最後の例会も併せて行われました。

午後0時30分より本堂にて、浜田運営委員長のもとお勤め。その後、委員長は挨拶の中で、当日の「一日一言」を読み上げられました。

◎修撰(しゅしょう)Ⅱ良い行いを心掛けていますか？

「皆さんは今日お寺に来ることができた良い因縁を喜んでください」とお話しくださいました。

研修棟に移ってから、最初に子ども達の約束と誓いの言葉を読み上げ、

『法音』掲載の漫画を親子で一緒に読みました。その後、クリスマスツリー作り、お正月用の書き初め、ピザ作り、

ケーキ作りとそれぞれに分かれ並行して活動しました。ツリーもきれいに飾りつけられ、おもしろいケーキにはいちごがびっしり。ピザもおいしそうに仕上げられました。

そして、書き初めを一人ひとりが書き上げたらお腹がグーグー鳴り出しました。急いでサンタさんに登場してもらおうようお願いしました。

「今日のサンタは人数が多いぞ！」と連絡があり、お皿やジュース、お菓子を並べてみんなで席についてサンタさんの登場を待ちわびていました。する

と、今年は何とサンタさんがおチビサンタさん2人を引き連れたの登場！おチビサンタさんの1人はメガネサンタ、もう1人はヒゲがいつぱいのヒゲサンタさんでした。サンタさんに代わってプレゼントの袋を受け取った可愛



高槻支院のクリスマス会

らしい2人が、みんなにプレゼントを配って回りました。

その後、お手伝いをした親子と一緒に、ケーキやお菓子、ジュース、ピザで楽しいひと時を過ごしました。

後片づけの後、親の部の例会を開きました。来年の行事日程と内容について話し合った後、御開山上人の「主・師・親の三徳」のご法話をみんなで輪

読し、例会を終えました。

こうして年内最後の例会が無事終了し、今日一日皆さんが笑顔で過ごせたことに感謝いたしました。本日の「一日一言」で言われている通り、今日こうしてお寺に寄せていただき、感謝できたことが、良い因縁を結んだということになるのだと思いました。

(通信員 新庄達吉 代 松永典子)

安芸津支院Ⅱ子ども会

バームクーヘン上手に焼けて、おいしかったよ。

12月17日午前9時、青年会・子ども会主催の行事に幼児から小学生まで20名ほどの子どもが家族と連れだつてやってきました。今日は支院前庭でバームクーヘン作りを体験します。

※準備品

・ U字溝・炭・1.5cm×30cm 麵棒・アルミホイール、ホットケーキの粉や卵等

※作り方

①保護者が厨房でボールに材料を入

れ混ぜ合わせて種を作る

②各々でアルミホイールを巻いた麵棒に種を塗りつける

③炭火をおこしU字溝に②の麵棒を渡し、くるくる回しながら焼く。

こんがり焼色がついたらその上に種を塗り重ね焼く。だんだん太くなるはず！

高学年の女子は慎重に取り組みますからそれらしき形に次第に近くなりま

す。元気な男子達は気が急ぐのか、出

来上がり直前にポトリと炭火の上に落下。「ああー」。最初からやり直して作らないと食べられません。こんな愉快な光景を繰り返しながらバームクーヘンもどき？の完成です。チョココレトやメープルシロップを塗って「おいしい」「初めはできるのか不安だったけど上手に焼けた」と自慢しながら、うれしそうな顔で自作をほおばります。お腹もいっぱいになったのでしよう、

広い本堂を走り回ります。

「バームクーヘンを作ると聞いて興味津々でした。こんなことは家ではできないから、子どもはそっちのけで夢中になりました。楽しい経験がありがとうございました」

お上人や青年会OBは知恵をしぼり、何度も試食をして諸事万端整えました。その甲斐あって子ども達も親御さんも満ち足りた笑顔です。そして、その笑顔が青年会などの皆さんを労ってくれたようです。(通信員 岸本輝子)

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

『一日一言』は大切な指針です

12月18日、顕修院日達上人に御報恩謝徳の誠が捧げられました。

本堂からあふれんばかりの大勢の方々にお越しいただき午後2時、ご宝前のお塔婆・ご位牌、そしてほえみかけてくださる御影の前で、島田上人導師のもと顕修院日達上人御祥月命日法要が厳修されました。

法要に続き、顕修院日達上人特別御報恩謝徳守護神授与式が執り行われました。御遷化されてますますお近くご守護いただき、一層深まる喜びの中、感謝申し上げますが精進のお誓いを

佐屋支院Ⅱクリスマスボーリング大会

感謝とご供養の心を伝えていきます

12月18日、恒例の子ども会行事「クリスマスボーリング大会」が実施されました。参加人数26名の賑やかな会と

されました。

法要後、島田上人より日達上人からいただきました尊い日々のご教化のお話を伺いました。皆さん、うなずきながら傾聴され、日達上人を偲ばれました。

日達上人御教化抄・御講演抄『一日一言』は、今年も終わりに近づいてきました。日々、なくてはならない指針として今年も過ごさせていただきました。本書を通して毎日毎日が、日達上人にお会いできた喜びで満たされています。
(通信員 位田久子)

なりました。

11月を過ぎた頃から「今年のクリスマス会はいつなの？」との問い合わせ

が相次ぎ、皆さん楽しみにしていることが伝わってきました。

ただただありがたい限りで、今回も満足していただける会にしたい!!と、企画にも力が入りました。子ども参加人数に対し、スタッフの人数不足が気がかりでしたが、お母さん方がお手伝いを申し出られ、心強く当日を迎えることができました。

昼食は毎年大好評のバイキングです。お寿司・ピザ・鶏の唐揚げ・フライドポテト・肉団子・ドーナツをテーブルいっぱいに並べましたが、育ち盛りの子ども達にかかってあつという間にたいらげられました。

昼食の後はいよいよボーリング大会です。ボーリング場からのお迎えバスに乗り込み、いざ出発。車内ではそれぞれが意気込みを口にし、盛り上がりは最高潮です。

2時間のボーリング大会は大盛り上がり、みんな大いに楽しみました。

支院に戻った後は、全員で本堂に上がり、村上善立上人導師のもと参加者

全員の先祖供養と、今年一年無事に過ごすことができた感謝のお勤めをしました。また、誰に言われるでもなく、自分の「おこづかい」から、喜捨箱にお賽銭を入れる子ども達の姿にうれしさが込み上げました。

来年も子ども達が楽しみにしてくれ

上野支院Ⅱクリスマス会

思いやりの気持ちで育まれました

12月18日、青年会・子ども会のクリスマス会が開催されました。

午後2時から勤行、小さな子も一生懸命に経本を目で追っていました。

橋本上人より「六つの大切なことがあります。一、誰にでも優しくする。二、人を信じる。三、嘘をつかない。四、欲張らない。五、腹を立てない。六、一日一回は「ありがとう」という気持ち伝えること、です」と、子ども達にもわかりやすくお話しくださいました。

今日はクリスマス会ということで、

るような行事の企画に努めたいと思います。そして、今後も諸天善神のお力をお借りし、子ども達に感謝の心、ご先祖さまを大切に「ご供養する心」を伝えていけたらと、気持ちを新たにお願いします。

(通信員 岩間淑子 代 村上美奈子)

皆でケーキ作りをしました。スポンジに生クリームを塗り、イチゴ・マスカット・チョコレートを、途中つまみ食いもしながら楽しく飾り付けしました。

京都支院Ⅱ年末大掃除

心の垢も落とせました

比較的穏やかなお天気に恵まれた18日、恒例の年末大掃除が行われました。大人29名、子ども3名の総勢32名が午前9時に本堂に集合。お上人のお題目三唱を合図に大掃除が始まりました。

飾りが大きすぎて持ち帰りのケースに入らない子もいましたが、それぞれに個性的でおいしそうなケーキが完成しました。その後、サンタさんからお菓子のプレゼントをもらって、全員で集合写真を撮りました。

青年会や小学校高学年の子も、小さい子の面倒を見ながらお手伝いをしました。思いやりの気持ちが育まれてうれしく思いました。

一生懸命作ったケーキをお父さん、お母さんにプレゼントするのかな？きつと喜んでいただけただけでしょう。皆、満足そうに持ち帰りました。

(通信員 廣出寛一 代 松山晃一)

お寺は大きくとても広いので、掃除をする所はいっぱいあります。普段のご奉仕ではなかなか手が回らない所も、丁寧にお掃除されていきました。ご奉仕でお徳が積める」とあって、

暖房不要なほどの信者さんの熱気

三原支院 山首上人さま「親修」新本堂入仏式・顕修院日達上人御祥月命日法要

皆さん張り切って作業をされ、順調に進みました。皆さんの活気にあふれた作業により、お寺の内外はとともきれいになりました。

今日一日で一年の垢を落とすことができました。清掃奉仕のお徳を積ませていただくことにより、心も清浄にな

ったことと思います。そして本堂におられるお祖師さま、三先師、日達上人から、さぞお徳をいっぱいいただけたことでしょう。

今日のように清浄な心を保ち、また清浄な心で新年をお迎えしたいと思います。
(通信員 牧野伸江)

12月18日午前11時、山首上人さま大導師のもと新本堂竣工・入仏式が執り行われました。1週間くらい前までは寒波で寒い日が続いていましたが、当日は本当に良いお天気に恵まれ感謝いたしました。

仕事の関係で遠方に行かれたけれど、今日の日のために帰って来られた方。

親族10数名で来られた方。親子3代の方もおられました。足腰が少し痛い古い信者さんも、今日は元気ハツラツでいらっしやいました。

初めて本堂をご覧になった方々は、

「ものすごく大きいねー、立派ねー」とビックリしながら本堂に入られました。本堂は満席になり、ロビーにも座布団を敷くほどでした。皆さまの喜びの熱気とお天気の暖かさで、一度は暖房を切るくらいでした。

入仏式が始まり、お祖師さまのお顔を拝見させていただいた時、皆さんを見守ってくださっているように思われました。

法要後、森野上人より「これからは、皆様により良い人生、意義ある人生を送っていただくために三徳の修養の道



新築された三原支院の新本堂

場にしていきたいと思っております」とご挨拶がありました。

続いて顕修院日達上人御祥月命日の法要が営まれ、読経が流れる中、感謝の焼香をさせていただきました。

法要後、山首上人さまより「私達は堪忍を教えていただいておりますが、もう一つ上の堪忍、どのような時でも普通に振る舞うことのできる自然な堪忍をしていきましょう」と、わかりやすくお話しいただきました。

続いて特別加持を受け、元気をいただきました。

立地条件の良い広い土地に立派なお高槻支院Ⅱ山首上人さま、親修・顕修院日達上人御祥月命日法要――

尊い因縁を結ばれました

12月21日、山首上人さまにお越しいただき、今年最後の講日が営われました。いつもより暖かい晴天となり、山首上人さまのお徳の賜物と一同喜びました。

一年に一度の山首上人さまご親修とあって、平日にもかかわらず、普段の5割増しぐらいの方々が参詣されました。午後2時、山首上人さま大導師のもと法要が始まりました。ご宝前には日達上人のご遺影が飾られ、供花が添えら

寺を建てていただき、本当にありがとうございますと思います。これからも皆さまとともに協力して、一人でも多くの方に来ていただけるようなお寺にしていきたいと思いました。

ご供養にお赤飯と卵を戴き、記念すべき日を終えました。

(通信員 平田真弓)

れる中、薫りの良いお香が焚かれ、切散華が舞い、ドラ・ハチの音が鳴り響きました。読経が始まると、参詣の皆さま、日達上人のご遺徳を偲び、お焼香をされました。

法要後、岩田上人のご挨拶がありました。お上人は12月17日の『一日一言』から「修撰Ⅱ善い行いを心掛けていますか？」を引用され、「今日皆さんは法音寺にお参りに来られ、良い因縁を結ばれました。これからも日々、良い

因縁を結べる場所へ積極的足を踏み入れてください」とお話しくださいました。続いて、山首上人さまは、歴史上の人物のさまざまな逸話を紹介されながら、「どんな時でも機嫌が良く振舞わなければいけない。どんな時でも明るく、にこやかに振る舞うことよって、困難な状況が打開される」とご教化くださいました。

ご法話終了後、山首上人さまに特別加持をしていただき、終了後、山首上人さまを囲んで記念撮影に臨みました。年末のお忙しい中、寸暇を惜しんで今年最後の講日に遠方各地から参詣された皆さんが、尊い因縁を結ばれました。推進目標に「必ず喜びの日がきます」という言葉があります。参詣された皆さんにとって良い一年の締めくくりとなったことと思います。

(通信員 新庄達吉)



自分で作ったピザは格別！

お天気に恵まれた12月23日、『お楽しみ会』が開催されました。

今回は、ピザ作りとお正月飾り作りのチャレンジ企画です。皆さん楽しみにしておられ、赤ちゃんから中学生までの33名と大人35名が参加されました。例年なら風邪で体調を崩す子が多い季節ですが、今年はみなさんとても元気で、本堂は暖房の必要がないくらの熱気でした。

まず初めに、お経の練習をしました。経本とにらめっこしながら頑張りまじいがん」を書きました。字の書けない子はお母さんに書いてもらって、お誓いすることができました。

いよいよ、待ちに待ったピザ作りです。研修堂に移動して、一人一枚ピザを作りました。お母さん方が自主的に手伝わられて、スムーズに進められてい

きました。

ピザの生地は何度も試食をして準備されました。子ども達は配られた生地を好きな大きさに伸ばし、好きな具を乗せていきます。完成した子から順番にオーブンで焼いてもらいました。今回は大勢なので、お寺のオーブンだけでは追いつかないため、事前に段ボールとアルミ箔で簡易オーブンを作りました。この段ボールオーブンは、アウトドアや災害時向きで、炭の火加減が安定するとオーブンより早く焼きあがる優れものでした。

3カ所で焼き上げてもらっている間に、子ども達はテーブルを移動してお正月飾りに挑戦。生の松や南天、造花を使ったリースをお母さんやおばあちゃんと一緒に作りました。リースを作っていると、ピザのおいしい匂いが研修堂いっぱいに広がりました。

正午になったので一時中断し、ピザをいただきました。自分で作ったピザの味は格別でした。また、ご奉仕の皆さんが朝からおいしいカレーライスを作っていたので、ピザとカレーでお腹いっぱいになりました。

皆で食事の後片づけをして、午後からはリース作りの続きをしました。素敵なお正月飾りが完成し、子どもも大人も大満足でした。



岐阜支院のお楽しみ会

ビザやリース作りで出たごみは参加者全員で拾い、使ったテーパーは保護者の皆さんがきれいに片づけておられました。

帰りには大人も子どもも、毎年、四日市の信者さんが届けてくださる素敵

福山支院Ⅱ冬のお楽しみ会

玄関にいくつも「子ども作」のしめ縄飾りが

12月23日午前9時30分より、恒例の冬のお楽しみ会が行われました。

早朝より子ども36名、家族28名、支院全体で母子会・青年会を盛り上げようと、女性会・壮年会36名の方がお手伝いに参加、総勢100名となりました。

まずは餅つき大会の始まりです。エプロン持参の女の子もいて、可愛らしいひとコマも見ることができました。臼の回りには、順番を待つ子ども達の列ができ、杵が下ろされるたび、みんなで「ヨイショ、ヨイショ」。やがて、つき上がるとみんなで一生涯命丸

なお菓子を戴き、笑顔で帰路に就かれました。

子ども達に助けられ、保護者の皆さんやご奉仕の方々のご協力のもと、今回も無事に終えることができました。

(通信員 三輪一女 代 河野由美)

めました。

その後、お母さん方のお手伝いのものと配膳。そして、お上人をお迎えして、あんころ餅、きな粉餅、アツアツの豚汁をお題目三唱していただきました。今年は子ども用に可愛い絵のランチプレートが用意され、子ども達も喜んでいました。

午後は本堂でお勤めを行い、宮崎上人より「人は正直に生きていくことが大切です」とお釈迦さまと提婆達多のお話からご法話をいただきました。続いて本堂を暗くして唱題行です。大きな声で真剣に唱えました。

記念撮影の後、今年初お目見えのしめ縄作りです。しめ縄作りは初めての子ばかりでしたが、縄のない方を教えてもらい何とか形になりました。次は飾りつけです。ここまで来ると子ども達もお手のもので、きれいに飾りつけをしていました。早くできた子は、他の子に作り方を教えてあげたり、親子で一生懸命作っている、微笑ましい光景も見ることができました。完成したしめ縄を持って記念撮影も行いました。お正月には、玄関にいくつものしめ縄を飾っているご家庭があることでしよう。

次はお待ちかねのサンタクローズの登場です。子ども達の「サンタさーん」の声に合わせてサンタクローズが登場。子ども達はプレゼントをもらい、満面の笑みでした。

その後、1階の和室に移動し「私の誓願」を全員で書きました。

最後にジュースとシュークリームをいただいて行事の終了となりました。玄関でお上人のお見送りを受けなが



福山支院の冬のお楽しみ会

ら、皆さん笑顔で帰って行かれました。
三先師・日達上人・山首上人さまのご
加護により、今年も無事、冬のお楽し

四日市支院 11 年末大掃除

一年を振り返りながら唱題行

晴天に恵まれた12月25日午前9時よ
り、今年最後の大掃除・大祓が行わ
れました。

最初に祖父江上人がご宝前を清めて
くださり、位牌堂から本堂の畳や窓の
掃除などが丁寧に進められました。開
け放された窓からは、師走とは思えな
い柔らかな風が入り、心地良さを感じ
る日でした。普段手の届かない天窓も
踏み台を利用して磨かれ、カーテンも
外してお洗濯。どの部屋も一年の汚れ
が除かれ、気持ち良く美しくなりまし
た。外では正月用の柚子採りや落ち葉
掃除が行われ、いつもより時間をかけ
た内外のお掃除が完了しました。

お昼はほど良い甘味のあげが入った
うどんでした。お勝手の皆さんが、掃

み会を開催できたことを感謝いたしま
す。

(通信員 高橋満紀 代 徳永秀樹)

除とお昼の段取りを工夫され、用意し
てくださったお陰です。

午後からは、一年間を反省し、罪障
消滅と報恩感謝の唱題行が行われまし
た。

読経に続いて皆で懺悔文を読み上げ
ました。わが身を反省する内容も多く
あり、各々の一年を振り返りながらお
題目を唱えました。その後お上人より、
「部屋の汚れ同様に罪障も重なり、と
れなくなってしまうないように、その
都度、消滅をさせていたいただきたいも
です」とのお話しいただきました。

その後、迎春の準備が行われました。
皆さんがご供養された鏡餅をお供えす
る台を組み立て、白布を掛けました。
金屏風と赤い毛氈の呈茶コーナーも準

備され、全体が華やぎました。門前では門松が力強く凛とした姿でお参りの皆さんをお待ちです。皆さんと一年を

振り返りながらご奉仕できたことありがたく感じました。
(通信員 服部薫 代 加藤成子)

淡路支院Ⅱ最終講日

日頃のお手伝いのご褒美いっぱい

12月25日、本年最終の講日が行われました。

例年どおり、講日の始まる1時間前に、昭和50年12月28日に御遷化された支院先師の岡崎善学上人(泰行院日祥上人)のお墓参りをしました。

午後2時からは御報恩法要です。法要後、神戸支院の井上信教師より体験

談をお聴きました。弟さんが交通事故に遭われ、命も危ぶまれましたがお徳をいただいで乗り越えられ、その後の重い後遺症にも屈せず、写経を一生懸命されて社会復帰できるところまで回復されたということができて本当に良かったなと思えました。

話を聴きました。弟さんが交通事故に遭われ、命も危ぶまれましたがお徳をいただいで乗り越えられ、その後の重い後遺症にも屈せず、写経を一生懸命されて社会復帰できるところまで回復されたということができて本当に良かったなと思えました。



平成29年・新年祝禱会

ご報恩の香煙が、全世界に！

西春支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

お正月ならではの厳かな雰囲気

青空に恵まれたすがすがしい元旦を

迎えました。大乗山法音寺の山門を入

続いて田中上人は「法音」より、山首上人さまの「堪忍」の実行の勧めをお話しくださいました。

その後、毎年恒例の食事会をしました。参詣者全員で机を輪に並べて、お弁当をいただきました。子ども達にはクリスマスプレゼントのお菓子も配られました。日頃のお掃除のお手伝いへのご褒美でもあります。

「今年一年、いろいろなことがあっても、今日、皆さんのニコニコ笑顔が揃ってうれしく思いました。来年も三徳のみ教えを実行していきますよ」とのお上人のお言葉で解散しました。

(通信員 川西広子)

ると、各所で新年のご挨拶を交わす人々、甘酒で体を温めている人々で賑わっていました。大階段下の両側には立派な門松が立てられ、お正月ならではの厳かな雰囲気を感じました。五色の

豊川支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

自己の革命を起こします

大幕の下から本堂に入ると、窓際の席ではお屠蘇係の方がにこやかにご接待されていました。ご宝前には大きな樽酒が両側に、その隣には各支院の大鏡餅が整然と飾られていました。

山首上人さまはご挨拶にて「酉には物事を成就して新しいことが起こる意があり、鶏は悪を退散させるという縁起の良い年でもあります。より一層お

題目を唱えて幸運になりますように」とお話しくださいました。

開山堂でおいしい豚汁とお弁当をいただき、新しい御札とコーヒーカーップのおみやげも戴きました。

初参りできた喜びに包まれ、周りに「感謝」の元旦となりました。

(通信員 栗木良子)

元旦午前8時30分、つつがなく新年を迎えることのできた喜びと感謝の思いを「明けましておめでとうございませ

す」の挨拶に代えて、バス1台とワゴン車に分乗し一路本山へ。車中では三先師・日達上人御報恩謝徳と団参者の先祖供養、留守宅のご守護を祈念して、お自我偈とお題目が唱えられました。

温かく穏やかな空気に包まれて本山に到着。境内ではいただいた甘酒のまろやかな香りを囲んでのんびりと談笑

し、その後、五色の大幕を仰ぎ見ながら大階段へ。

ご宝前には全国支院からの鏡餅と献酒が供えられ、お祖師さまの前には華やかな生御膳。レンコンの根が新たな

年への士気をそのままに、翼のように天井に跳ね上がっております。法要は、厳粛そして荘厳に。山首上人さまからの『法華経三徳の奉持』の問い掛けに、「よく持ち奉る」と、高らかに

お誓い申し上げました。



本山の新年祝禱会の日

法要後、山首上人さまより「酉年のトリは鶏のこと。鶏は夜明けを呼び、その鳴き声は、暗闇にうごめく魔物を退散させるという縁起の良い年です。幸運を呼び込む自己改革の年にしてください」とのお言葉を頂戴しました。

お昼は真心こもった祝膳の数々。ご奉仕くださった皆さまに深くお礼を申し上げ、本山を発ちました。

祝賀の空気の醒めぬまま、八事御廟へ到着。三先師・日達上人の墓前で自我偈を上げ、法縁募誌の日義上人（小森啓学上人）と大高法尼に新年のご挨拶

摺を申し上げ、合祀塔では「会いに来ましたよ」と声を掛け、灯した線香を手向けました。この香煙は法音寺のみ教えを乗せ、日本全国、否、全世界になびいていくであろうと合掌いたしました。

○「昨年まで、思うようにならないことを人のせいにして、窮屈な人生でし

たが、今年から変わります。自己の革命を起こします」

○「与えられたことをすべて、それでよし」と受け止められるように、広い心になります」

○「人の見えないところで徳を積み、本当の徳人となるよう精進します」

(通信員 鈴木康昭)

何事も良い方に變化しますように

関支院Ⅱ本山の新年祝祷会団参

暖かな平成29年元旦を迎えました。

支院の玄関には壮年会の方々お手製の立派な門松が立てられています。門松のそばには信者さん手作りの素敵な松・竹・梅の盆栽が飾られています。周りに大小ののぼり旗が立てられ、ご参詣の皆さんを迎えています。

ご宝前は昨年の暮に蛍光灯をLEDに取り替えられ、明るくなりました。堂内には五色の幕が張られ、ご宝前に交通安全の御守とたくさんの鏡餅、お供物等が並んでいます。

午前8時30分、新年祝祷会団参の方々が集合。ご宝前で支院祝祷会の法要の後、バスで本山へ出発しました。

午前10時頃、無事本山に到着しました。境内に入ると、立派な門松と五色の幕がひときわ輝いていました。大きな門松の前で記念写真を撮り、法友と語り合いながら甘酒をいただきました。と語り合いながら甘酒をいただきました。から身体を温めて本堂に入りました。

ご宝前には「私の誓願」や各支院からの立派な鏡餅・樽酒等がお供えされ、お正月の雰囲気醸し出していました。

午前11時、山首上人さま大導師のもと新年祝祷会が営まれました。

山首上人さまの法華経・三徳護持のお問い掛けに「よく持ち奉る。南無妙法蓮華経」とお誓いさせていただきました。

山首上人さまは新年のご挨拶の中で、「酉年は新しいこと、革命的なことが起こると言われています。良い方にも悪い方にも變化するので良い方になる年にしてください」とお話しくくださいました。

その後開山堂に移動し、温かい豚汁とおせち料理のおもてなしを受け、午後1時、本山を後にしました。

参詣された皆さんは御札とご供養を戴かれ、「今年もお参りできて良かった」と語り合いながら家路に就かれました。

「本年は大きな變化のある年」というお言葉を胸に、良い方向に向うよう三徳の実行に励んでいきたいと思えます。

(通信員 幅梅子)

良くなるも悪くなるも自分次第！

平成29年元旦、本山新年祝禱会に参詣しました。風もなく澄んだ青空の下、「新年おめでとうございます。良いお正月になりましたね」と、皆さん駐車場を迎えてくださるご奉仕の方々挨拶を交わしておられました。

境内でおいしい甘酒をいただき本堂へ。堂内でも法友と新年の挨拶をされる姿があらこちらで見られ、参詣できたことに喜びを感じました。

荘厳な法要に続き、山首上人さまから、今年の干支「酉年」にちなんだお話をいただきました。

「酉年はいろいろなものが変わる年です。自身の三徳の行いによって幸運を自分のものにしてください」

良くなるも悪くなるも自分次第、実行あるのみですね。

お弁当・おみやげを戴き、本山を後にして支院へ向かいました。

午後2時より支院新年祝禱会が奉行されました。法要後、後藤上人より「酉年は活動する年です。人それぞれの立場で役割があります。いろいろな行事などに参加し、またご奉仕をする

四日市支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

心の空気も入れ替わるようでした

平成29年の元旦は暖かく「今年は良い年だなあ」と感じられました。

例年通り、本山の新年祝禱会に団参させていただくために集まったバス乗り場でも「おめでとうございます、今年もよろしく」と笑顔で挨拶が交わされ、和やかな雰囲気になりました。

バスは定刻通りに出発し、一路本山へと向かいました。道中は順調で、本山へお参りすることで諸天からご守護をいただいているのだと、感謝の気持ち

などとして、自ら運を引き寄せてください」とのお話がありました。続いて、運営委員長から「私達は自然の恵み、周りの人、さまざまな恩恵を受けています。感謝を忘れず、日々を過ごしたいものです」というお話がありました。参詣者のお顔は、無事に元旦を迎えられた喜びにあふれていました。

(通信員 加藤寧子)

ちでいっぱいになりました。

本山に着くと受付を済ませ、名古屋で待ち合わせた信者さん達と合流し、境内にていただいた甘酒に舌鼓を打ちました。ほっと一息ついたところで本

堂に上がり、「四日市支院」と書かれた場所へ腰を下ろしました。法要を待つ間、「新年のお誓い」を山内のお上人のご指導のもと練習しました。山首上人さまに元気な声でお返事ができるよう、喉の通りを良くして法要の始ま

本山の新年祝祷会の日



りを待ちました。

午前11時、新年祝祷会の法要が始まり、山首上人さまがご昇堂されると場の空気がピーンと張り詰め、新しい年を迎えて心の空気までも入れ替わるようでした。

法要後、山首上人さまより「丁酉の本年は革命の起こる年かもしれません。三徳を實行し、お題目を唱え、良い方へ変われるよう精進していきましょう」とご教導いただきました。お言葉を胸に刻み、今よりもっと成長して変革を起こせる年にならしたいと思いました。

開山堂でミニおせちと温かい豚汁の

昼食に舌鼓を打ち、新年のお札と干支のコーヒーカーップを頂戴し、支院に戻りました。

午後2時からは支院での祝祷会です。参詣の方々が団参組と合流し、今年最初の支院本堂での法要を皆でお参りさせていただきました。そして、祖父江上人の新年のご挨拶の後、みかんとお

静岡支院〓本山の新年祝祷会団参

より一層のお題目と三徳実践のお誓い

今年一年を象徴するかのような明るく暖かな日差しに包まれた1月1日午前10時より、支院にて元旦会が執り行われました。

お上人は「正月は神社・仏閣で良い年にしてほしいとお願ひしますが、良い年にするのは自分です。法音寺三徳の教えを實行していけば良い年になります」とお話しくださいました。

終了後、本山新年祝祷会に向け大型バス6台に250名が乗り込み出発しました。バスは高速道路を順調に走行

餅のご供養を戴いて皆さん帰路に就かれました。

こうして新しい年を迎えられるのはとてもありがたいことです。仏さまのもとに集い、ご挨拶できることは格別の喜びです。この喜びを持って、今年一年をしつかり歩んで参りたいと思ひます。

(通信員 服部薫)

し本山に到着。本堂に向かう参道では甘酒のご供養があり、身体も心も温めていただきました。

厳粛な法要の後、山首上人より「酉年には革命的なことが起こると言われています。より一層お題目と三徳の実践をすると幸運がやって来て、良い年になります」とご教化いただきました。皆さん、法音寺三徳の實行を心に誓いました。

法要後は開山堂にて、おいしい豚汁とおにぎり、おせちの食事をいただき、

お腹もいっぱいになり、午後2時半頃、お見送りいただいたいて本山を後に帰路に

就きました。(通信員 高橋清二)

安城支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

ほのぼのとしたり、楽しい食事のひととき

真青な空、風もない穏やかな暖かい元日を迎えました。

午前10時、島田上人導師により支院新年祝禱会が厳修されました。参詣者は本堂からあふれ、玄関ホールまでつながっています。皆さんとともに大きな声でお題目をお唱えする中、新しい年の法要が営まれました。

法要後、島田上人より「今年一年が穏やかでありますように、『如説修行鈔』に示されてある如く、お題目をたくさん唱えて、三徳の実行にご精進ください」とご挨拶がありました。

お屠蘇をいただいて11時30分、本山新年祝禱会に向けて大型バス2台で出発しました。

山首上人さまに法華経、法音寺三徳のお誓いをさせていただきますと、新

しい年を迎えた喜びが広がります。

山首上人さまは、「今年は丁酉。器の中でものが醸成して新しいものができるという意味があります。また鶏は、古来神聖な鳥、吉兆の鳥と言われています。幸福が来るように三徳の実行に励みましょう」とご挨拶くださいました。

その後、開山堂で昼食をいただきました

明川支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

気持ち良い新年のお誓い

平成29年は暖かい始まりとなりました。本山新年祝禱会に向け午前10時30分、支院を出発しました。待ち合わせ場所へ参詣の信者さん達を乗せたマイクバスは定刻に本山に到着しました。

した。

当支院の団参の中に、外国から里帰りされたお孫さんについてきた、青い瞳の少年がいました。小さい箱に美しく詰められたおせち料理が珍しいように、紅白なます・昆布巻き・黒豆・玉子焼き・かまぼこの、一つひとつに興味をもって友人のお母さんに質問しながら食べていました。周りの人達も笑顔に向けて、ほのぼのとしたり楽しい食事のひとときが過ごせました。

今年も山首上人さまのご尊顔を拝し、ご教示をいただけた幸せを胸に、午後2時30分、帰路に就きました。

(通信員 位田久子)

早速、温かい甘酒をいただいたり、昭徳会・高浜安立さんの作品や仏具などを売ったり買ったりと、暖かい境内でゆったりと過ごしました。

本堂に入ると、たくさんの方の信者さん

が集い、祝祷会の始まりを待つておられました。

午後1時より平成29年の新年祝祷会が厳修され、山首上人さまとの新年のお誓いも気持ち良くさせていただきました。

山首上人さまは、ご挨拶で「酉年には特別なことが起こると言われています」

郡上八幡支院Ⅱ新年祝祷会

新年の喜びにひたることができました

ゆく年のさまざまな思いをくる年の希望に託し、静寂の中を除夜の鐘が鳴り響いています。町は雪もなく、穏やかな新年を迎えました。

午前0時、支院の門前は新年の装いです。門松が供えられ、謹賀新年の掛け紙が浮かび、色とりどりのお題目旗が漆黒の闇の中に鮮やかにたなびいています。参詣者はそれぞれに「新年あけましておめでとうございます」「今年もよろしくお願ひします」と挨拶を交わし、ともに新春の慶びを分かち合

す。皆さんがお題目を唱え、三徳の冥行に励まれば必ず良い方へ向かいます」とご教化くださいました。

開山堂でおいしい食事をいただき、今年も「今日一日の三徳実行」を誓い帰途に就きました。

(通信員 鈴木初枝)

つています。

午前0時30分、渡辺上人導師のもと、支院新年祝祷会が執り行われました。毎年、新年のお参りは心が洗われる思いがします。参詣者の穏やかな笑顔にあふれる本堂には、「この一年良い年でありませうように」との願いが込められています。

法要後は、甘酒のご供養があり、体も心も温まり、皆さん家路に就かれしました。

明けて2日、本山新年祝祷会団参です。すばらしい好天に恵まれ、支院を8時に出発。町内各地の待ち合わせ場所で合流し、一路本山へ。車中、道中安全、御報恩謝徳を祈願し、暖かい陽射しの中を無事本山へ到着。今回は、本山合流組と合わせて35名の参詣となりました。

境内では、甘酒のご供養で一息つかせていただき、大本堂下の大きな門松の前では記念の写真に納まります。今年もまたともに本山で新年を迎えることができました喜びに、皆さん沸き立っていました。

午前11時、大本堂にて山首上人さま大導師のもと新年祝祷会が厳修され、お堂を埋め尽くす全国各地からの参詣者とともに、心新たに新年の喜びにひたることができました。

山首上人さまは、ご挨拶の中で今年の酉年にちなんで「今年は大きな変化があるかもしれないが、良い方へ変わるのか、反対の方へ変わるのかは、その人次第です。喜びの一年を過ごす

ために努めて三徳の実行をいたしまし
よう」とご教化くださいました。
開山堂では、おもてなしの昼食をい
ただき、懐かしい人との出会いもあり、
本当にありがたい一日となりました。

岐阜支院Ⅱ新年祝祷会

各行事に向う心構えを胸にお誓いしました

青空の中、穏やかな元旦の朝を迎え
ました。午前6時50分、瑞雲を初日の
光が神秘的な色彩で染めていきます。
やがて天空に初日の出を拝み、感動の
ひと時でした。境内の大幟、題目旗、
五色の吹き流しがゆったりと揺れてい
ます。

玄関のしめ縄飾りをくぐって堂内に
入りますと「今年の願い」が目に残ま
ります。

- (と) うとい三徳保つため
- (り) たの心で生活しよう
- (ど) んな時でも心に妙法
- (し) ゆうようして行く今日一日

1階のホールには紅白幕が張られ、

これも山首上人さまの御徳と多くの人
のお陰と感謝しました。

帰路、郡上には予定よりも早く着き、
それぞれの表情には笑顔があふれてい
ました。
(通信員 八代哲雄)

支院恒例のお茶室が設けられています。
和服姿の女性のご接待で大勢の参詣者
がお菓子とお抹茶のおもてなしに寛が
れていました。

ご宝前は鏡餅、献酒が整然と供えら
れ、新年の荘厳な輝きを増しています。

午前11時、前原上人導師により新年
祝祷会の法要が厳修されました。新年
ならではの姿が多く見受けられ、遠
方から親子孫3世代のご家族がいらし
たほか、今年はアメリカからも信者さ
んのご家族がお越しになり、大変華や
かになりました。

ご宝前に参詣される方々のお題目の
声の力強さと、新年に向けての精進の

心を感じました。

前原上人はご挨拶の中で「心に余裕
のある人生を送るには、徳の力が必要
です。他人のために働ける人生、あた
りまえのことを大切に愉快地に過ごし
ましょう」とお話しくださいました。

その後、研修堂でおいしいおせちと
お酒をいただき、新年を寿ぎ、精進を
お誓いしました。

1月2日、晴天に恵まれ太陽が燦々
と輝く中、大型バス2台で本山新年祝
祷会に参詣しました。

法友と挨拶を交わし、境内で甘酒を
いただき、新年の法要に臨みました。
山首上人さまに法華経三徳の護持をお
誓いさせていただきました。

山首上人さまは、ご挨拶の中で「『丁
酉』の今年は新しい変革の起きる年で
す。良き変革が起きるよう、お題目と
三徳の実行に励みましょう」とご教示
くださいました。

感謝の心と希望を胸に開山堂に移動。
おせちと温かい豚汁、おいしいお酒の

おもてなしを受け、親戚・法友の方々と新年の幸せを喜び合いました。

午後0時30分、ご奉仕の方々のお見送りを受け帰途に就きました。

今年の各行事に向かう心構えを胸に、感謝の心とともに新たな精進をお誓いしました。
(通信員 三輪一女)



岐阜支院の新年祝祷会

上野支院Ⅱ新年祝祷会

広宣流布のお手伝いをします

平成29年の元日を迎え、初講日に併せて新年祝祷会並びに成人式が開催されました。

少し遅りますが、慌ただしさが始まりかけた師走の日曜昼下がり、注連縄の製作が始まりました、有志の信者さんから稲藁のご提供をいただき、総勢20名ほどで2時間かけて作業を進めると、みるみる立派な注連縄に。先輩方から受け継いだ技の集大成、お正月を飾る第一歩が完成しました。

さらに12月30日は朝より大勢のご奉仕により注連縄の張り替え、鏡餅のお供え等々が進められ、すっかり準備が整いました。

平成29年の幕開け。午前9時30分、大勢の参詣者をお迎えする準備として、門幕の取りつけ、外陣のイス席や座布団並べ等を済ませ、法要開始を待つばかりとなりました。

そして午前11時、大太鼓の打ち出しを合図に新年祝祷会の法要が始まりました。方便品・寿量品を唱えさせていただき、続いて成人式へ。神力品をお唱えし、新成人へ手向けさせていただきました。橋本上人に御発声いただき、新成人をはじめとして、参詣者全員で、新年の三徳の実行をお誓いいたしました。

法要後、橋本上人より平成29年度実行目標の「自説誓言」について解説をしていただきました。広宣流布の大切さ、功德の大きさについての法話に続いて、おせち料理を彩る数々の品の意味や言い伝えについてもお話しくださり、それぞれに大切な意味、込められた思い、先人の智慧にふれることができました。

その後、階下の教化室にてお屠蘇、お茶のご接待を賜り、ご供養の品々を

頂戴し、皆さん両手いっぱいになってあふれる笑顔で家路に就かれました。

本年も昨年同様、さまざまな行事が目白押しですが、橋本上人ご指導のもと、檀信徒一丸となって御法推進の大目標をめざして、精進をお誓い申し上げます。

1月2日午前8時30分、121名の団参の皆さまを乗せた大型バス3台が本山へ向けて出発。途中、大山田パーキングエリアで休憩を取りながら、午前10時30分、無事到着しました。

境内で温かい甘酒を頂戴し、ほっこりさせていただいて本堂へ。

午前11時、山首上人さま大導師のもと平成29年新年祝禱会の法要が始まりました。

「今身より仏身に至るまで、よく法華経を持たんや否や」「今身より仏身に至るまで、よく三徳を持たんや否や」と山首上人さまのお問い掛けに、参詣者全員大きな声で、「よく持ち奉る南無妙法蓮華経」とそれぞれにお誓い申

し上げました。

法要後、山首上人さまは「本年は丁酉の年で、古来、革命的なことが起る年と言われてきました。より一層三徳の実行をして、良い年にしてください」とご教化くださいました。

その後、開山堂2階にて昼食のご接待を受けました。恒例の豚汁をいただき、思わずおかわりをしてしまいました。ご馳走さまでした。

京都支院 新年祝禱会

「ありがたい」を心に染み込ませます

1月1日、たくさんのご家族で、お寺の中は普段の賑わいを上回る盛況となりました。法要に先立ち、新年恒例の「お薄とはなびら餅」が小宝前の間で振る舞われました。

午前11時より支院新年祝禱会の法要が安藤順法上人導師のもとで営まれ、参詣者一同で読経。お題目をお唱えさせていただきました。

法要後、順法上人より「今年は気持

穏やかな天候に恵まれ、八事御廟にて三先師・日達上人の墓参をし、改めてこの御法と出会わせていただけたことのありがたさを、奇跡の如くに感じたい一日となりました。

本年も、本山、支院の各行事に可能な限り参加して、広宣流布のお手伝いができるよう努力する所存です。

(通信員 廣出寛一)

ち良く、喜んで朗らかに三徳の実行に励みましよう。そして、「ありがたい」を心の中に染み込ませて精進しましう」と新年のお言葉をいただきました。

法要終了後、皆さんお年玉(お線香・カレンダー・暦)を戴き、帰路に就かれました。

翌2日、今年も本山新年祝禱会にお参りさせていただいたため、大型観光バ

スにて京都市内の5カ所で順次、檀信徒の皆さんを乗せ、合計27名で本山へと向かいました。

ありがたいことに道中渋滞もなく、予定時刻の10時20分に到着しました。本山ではご奉仕の方が笑顔で私達を迎えてくださり、毎年楽しみにしている甘酒をいただき、身も心も温まりました。

本堂に入るとたくさんの方の信者さんが支院毎に座っておられ、ご家族連れの方も多く、活気づいていました。本堂内陣には各支院の大きなお鏡餅が供えられ、背景には雅楽が流れてお正月気分満載でした。

定刻11時より、新年祝祷会が山首上人さま大導師のもと厳修されました。山首上人さまをはじめ、お上人方、そして信者さんが一体となって法華経を誦読させていただくと、堂内にその声が響き渡り、荘厳で身の引き締まる思いがいたしました。

法要後、山首上人さまより「今年は丁酉です。物事が醸成されて新しいこ

と、革命的なことが起こる年です。お題目と三徳の実行に精進すると必ず良いことが起こります」とご教示いただきました。

法要が終わり、開山堂にて昼食をいただきました。ご奉仕の方が作られたおせちと豚汁をいただき、ゆつくりと寛がせていただきました。

その後、三先師・日達上人、法縁各聖が眠っておられる八事霊園にてお勤めをさせていただきました。例年、と

岡山支院 新年祝祷会

大鏡餅が新年の慶びを感じさせてくれました

平成29年元旦、今年も好天に恵まれた穏やかなお正月になりました。支院の玄関の門松もいきいきと出迎えてくれています。

各地から里帰りされた方々を交えて大勢の方が参詣されました。

午後2時より梅田上人導師のもと、支院新年祝祷会の法要が営まれました。役員のご挨拶の後、梅田上人より

ても寒い中での参りですが、今年はこちらがたいことにコートなしでも大変暖かい募参となりました。

八事霊園での募参も滞りなく終わり、京都へと帰途に就きました。帰りの道中も順調に走ることができました。これも「お徳をいただいているおかげ」と感謝の気持ちでいっぱいでした。

山首上人さまの新年のお言葉を胸に、三徳の実行に精進して参りたいと思います。
(通信員 牧野伸江)

「周利槃特がひたすら実行して悟りを開かれたように、私達も日々三徳の実行に取り組んでいけば仏になることができます。今年一年コツコツと実行しましょう」とのお話をいただきました。

全員でお屠蘇をいただいた後、青年会が用意した恒例の新春くじを引きました。当たり番号の品々に今年の目標が書いてあります。皆さん「心情にび

「今年はこれに気をつけよう」
等々、それぞれ目標に向けての決意を述べられていました。

翌2日、本山新年祝祷会団参です。支院のワゴン車、信者さんの車5台、新幹線組に分かれての団参となりました。午前9時30分頃、法音寺霊園に集合。三先師・日達上人の墓前に心新たに三徳の実行を誓い、御報恩の祈りを捧げさせていただきました。
午前11時、山首上人さま大導師のもと新年祝祷会の法要が厳修されました。

福山支院Ⅱ新年祝祷会

お徳がいっぱい入る大きな器を作ります

東の空から注ぐ、神々しいまでの日の出の光を浴びて、思わず両手を合わせて2017年の始まりに、感謝の祈りを捧げました。

元日午後2時からの支院新年祝祷会が始まる前に、今年は参詣の皆さまを気持ち良くお迎えをするため支院内に

荘厳なご宝前に供えられた各支院の大鏡餅が、ひと際新年の慶びを感じさせてくれました。

法要後、山首上人さまは今年の干支の酉にちなんで「今年は良きにつけ悪いにつけ大きな出来事がある年です。悪いことが起きないように、より一層三徳を実行してください」とご教示くださいました。

今年も無事に新年祝祷会団参ができ、山首上人さまの大きなお徳をいただくことに感謝いたしました。

(通信員 木村彰保)

雅楽を流し、ロビーでお屠蘇と甘酒が振る舞われました。お正月で里帰りをされた若い方もお参りされ、久し振りの対面に笑顔の花が咲いていました。

定刻に宮崎上人導師のもと新年の法要が行われ、続いて松葉運営委員長から「三徳の実行に努力しましょう」と

ご挨拶がありました。

その後、教務部より支院の目標「笑顔と言葉で周りの人を喜ばせ合ひましょう」についてお話があり、行事部からも「今年も皆さんに喜ばれる行事を計画して奉仕の心で勤めさせていただきます」とご挨拶をいただきました。また役員全員の紹介がありました。

宮崎上人はご法話にて『法音』1月号の山首上人さまのお話より「上機嫌療法」のことを取り上げられ、「今までに経験していないことが起きて苦痛を感じる時もありますが、前向きに明るい気持ちで未知の世界を楽しみ、味わっていくことが大切です」とお話してくださいました。

最後に先師の残された御詠を短冊にしたものを、今年一年の精進の目標にと、皆さんくじ引きをして戴かれました。

皆さん、ご家族の分も求めて、うれしそうなお顔で帰途に就かれました。

その夜、本山新年祝祷会団参のため

に32名が午後11時前に支院に集合。勤行の後、バスにて本山に向け出発しました。

2日午前6時、開基堂に到着し、高浪上人のお出迎えを受け法要が営まれました。

法要後、高浪上人は「日達上人はいつも、自分のできること徳を積んでくださいとよく話されました。実行することが一番大切です」とお話しくださいました。

休憩の後、高浪上人、お庫裡さま、お手伝いの方々に感謝し、開基堂を出発しました。

続いて法音寺霊園に向かいました。到着後、穏やかな晴天の中、清々しい気持ちで三先師・日達上人のお墓に参拝させていただきました。

午前9時前に本山に到着。朝食をいただき、新幹線組・自家用車組と合流し、総勢45名で午前11時からの新年祝祷会の法要に参列しました。

山首上人さま大導師のもと、法要が厳修されました。法要後、山首上人さ

まによる新年のお誓いでは「よく持ち奉る、南無妙法蓮華経」とお応えし、三徳の実行をお誓いしました。

山首上人さまはご挨拶の中で「西年は縁起の良い年と言われています。より一層お題目を唱え、三徳を実行してください」とお話しくださいました。日達上人が、「本山にはたくさん徳があります。いっぱい持って帰ってください。いっぱい持って帰っても、徳を入れる器が小さいとこぼれてしまいま

安芸津支院 新年祝祷会

縁ある方々が笑顔で過ごしていただけてますように

平成29年元日、支院新年祝祷会並びに交通安全祈願法要が行われました。

玄関には信者さん達が作られた紅白の門松が、皆さまをお出迎えしています。法要後、湯本法尼は「こうして新年を迎えることができて、ありがたいことです。どんなことがあっても腹を立てないようにしましょう」とお話しくださいました。三先師の御詠の短冊

す。大きな器を作るため、三徳の実行をしてください」とよくお話しされていたことを思い出しました。

本山の新年祝祷会に参詣させていただき「慈悲・至誠・堪忍」三徳の実行を改めてお誓いしました。

午後0時30分頃、大勢の皆さんに見送られ、晴れやかな気持ちで本山を出発、帰途に就きました。

(通信員 砂田裕章 代 徳永秀樹)

をくじ引きして、今年の指針としていきたいと気持ちを引き締めました。

翌2日、本山新年祝祷会に参詣させていただきました。境内では優しい笑顔のお出迎えが……。おいしい甘酒のおもてなしにも感謝しながら、本堂へ昇堂させていただきました。

午前11時、山首上人さま大導師のも

お題目で心が一つになりました

と厳かに新年祝禱会の法要が行われました。山首上人さまの法華経・三徳実践のお問い掛けに「よく持ち奉る」と新年のお誓いをしました。

法要後、山首上人さまより「今年は丁酉で革命的なことが起こると言われています。酉は神聖な鳥で縁起が良いとされています。より一層お題目を唱

えて、三徳の実行に励みましょう」とご法話をいただきました。

両日とも暖かく、晴天に恵まれた中で参詣できたことに感謝いたしました。今年も縁ある方々が笑顔で過ごしていただけるよう、三徳の実行をお誓いします。

(通信員 岸本輝子 代 重岡秀子)

平成29年元旦。晴れ晴れとした穏やかなお正月となりました。

午後1時からの支院新年祝禱会には、約230名もの方々がご参詣になられました。

大庭持念上人導師のもと祝禱会の法要が執り行われ、「今年もしっかりお題目を唱えて、その功德を回向してください」とのお言葉に身が引き締まる思いでした。

その日の午後9時、本山・身延山祝

禱会団参に向けて2歳から80歳までの総勢45名が支院に集合。道中の安全祈願のお勤めと団参中の心得のお話があり、午後10時に出発しました。今年は大型バス1台での団参でしたので、いつもマイクロボスの運転をしてくれる青年会の方達にかかる負担が少なく何よりでした。

2日午前8時、本山に到着。早朝からたくさんの奉仕の方々に朝食のご用意をしていただき、長旅の身には温かいご飯と豚汁が何よりのご馳走でした。

本山の新年祝禱会の日



開山堂に設けていただいた休憩所で一休みした後、御廟所へ。日本晴れの下、先師の墓前でお自我偈とお題目をお唱えし、日頃のご守護に感謝いたしました。

別行程で本山に到着された4名の方

と合流し本堂へ昇堂。午前11時より新年祝祷会が厳修されました。山首上人さまより干支「丁酉」についてお教えいただき、「新しいことが起こる年であり、縁起の良い年です。このような年にお題目を唱え、三徳の実行をすれば、きっと良いことが起こります」と、今年一年の希望と明るさを感じるお言葉もいただきました。

午後0時30分、本山の皆さまのお見送りを受け、身延山久遠寺へ向けて出発しました。新東名高速道路はお正月にもかかわらずほとんど渋滞もなく、すこぶる快適で、青空を背景にした冠雪の富士山が見えるたびに歓声が上がりました。

まだ明るい午後4時前、身延山に到着。今までの最短時間記録を更新です。早速、日蓮聖人の御廟所へと向かいまいした。無事にお参りできたことに感謝し、一人ひとり今年一年の新たなお誓いを立てました。

宿での夕食に舌鼓を打ち、温泉で長旅の疲れを癒した後は、各部会に分か

れての座談会の時間です。昨年の反省と、毎年恒例の支院祝祷会の際に各々いただいた「標題」について夜更けまで語り合いました。

翌3日午前6時より、久遠寺祝祷会法要に参詣しました。御年92歳になられる内野日総法主猊下の「生命ある限りお題目を唱え、いただいた生命を大切に、中身の濃い一年をお過ごしください」との力強いお言葉に、より一層の精進をお誓いいたしました。

午前9時より、持念上人導師のもと御廟所・常唱殿にて約1時間の唱題行を行いました。他の寺院の方々も加わられて、一緒にお題目を唱和。本当に

亀岡布教所 〓 本山の新年祝祷会団参

今までと違う自分になれるよう徳を積みます

朝からスツキリとした爽快な青空、まさに新年祝祷会団参にふさわしい絶好の日和となりました。

1月2日午前10時に電車と車に分かれて出発。暖かい太陽の光を背に浴び、

お題目で一つになるといふのは、こういうことなのだと感動しきりでした。

午前11時、宿の方々のお見送りを背に身延山を下山。予定通り4日午前1時、無事支院に帰着しました。3日間とも好天に恵まれ、幸先の良い一年のスタートとなりました。

日本各地でいろいろな災害が起こっています。自分達が喜ぶばかりでなく、今まで以上にお題目を唱え、災難防止・国土安穩を願い、何が起こっても動じない心の平安を保てるよう、日々の精進をお誓いし、解散しました。

(通信員 大庭幸雄 代 大庭浩子)

諸天善神・山首上人さまのご守護を感じながら本山に無事到着しました。甘酒をいただき、温かい心遣いに厚く感謝しました。本堂の玄関前の立派な大門松と五色幕を見て、とても幸せな気

持ちで参詣をさせていただきました。

午前11時、山首上人さま大導師のもと新年祝禱会が厳かに営まれました。

法要後、山首上人さまは「酉年は物が醸成され、新しいことが起こると言われています。お題目を唱え、より一層三徳実行をして、良い年にしましょう」とご教示くださいました。

開山堂ではおいしいおせち弁当と豚汁をいただいで、皆ほっこり笑顔。

「今年もまた頑張ろう」と元気いっぱいでした。

今年もご奉仕の方々のお陰により、いろいろな方々との親睦和合の輪が広がりました。

《参詣者のお声》

○「昨年はいろいろなことがありましたが、お正月から暖かく穏やかな晴天に恵まれ、祝禱会にも参詣できてありがたかったです。今年も三徳を実行して、お題目を唱えながら一日一日精進することをお誓いしました」

○「今日は暖かく、心地良く祝禱会に

参詣することができました。今年は酉年で改革の年。私も良い改革ができるよう三徳実行を頑張ります」

○「今までとは違う自分になれるようお徳を積み、精進していきます」

○「暖かな日差しのもと、今年も祝禱会に参詣できた喜びでいっぱいでした。今年こそ慈悲のある優しい心遣いを

東京支院Ⅱ新年祝禱会

ビシツと心が引き締まりました

平成29年元日。風も穏やか、陽光の眩しい心地良い幕開けです。青空を背に、白地に黒のお題目旗が晴れがましく翻ります。本堂の金屏風とお屠蘇の器、ちらほら目に飛び込む和服姿が、いかにもお正月という風情を醸し出していました。

午前11時、今年初の鐘が鳴り、お題目が唱和され、法要の開始を告げました。普段と同じ方便品・寿量品ですが、元日のそれはまた格別です。

猪原上人は法要後のご挨拶で、昭徳

します」とお誓いしました」

○「日頃から三徳実行をと思っっていますが、山首上人さまが「酉年は良いも悪いも新しい革命的なことが起こる」とおっしゃられたのを聞きし、さらに三徳実行に励むことをお誓いしました」
(通信員 花崎寿美)

会・高浜瓦版に掲載された山首上人さまの「和顔施」の教えを紹介されました。

18年間、妻に笑顔を見せたことがないという方が、デール・カーネギーの講演を聴いて一念発起。初めて笑顔で朝の挨拶をされて卒倒しそうになった奥さんを前に、これからも続けるので、そのつもりで」という一節です。

その継続の効果は、カーネギーの予言通り、劇的な人生の転換をもたらし、幸福感に満ちた人生を送られました。

お上人は「皆さんも何かを続けると、お誓いをされると良いですよ。今年の大みそかにはきつと良い結果を受け取ることができます」と、締めくくられました。

多目的ホールへ降りると、大エビの天ぶらうどんやアルコール類が待っていました。

午後の2座へ臨まれる方達とも歓談を楽しんだ後、今朝早くから準備していただいたアツアツの安納芋を手に、皆さん帰途に就かれました。

「かしゃかしゃかしゃ」とシャッター音が響きます。1月2日の新幹線内。カメラの先には青空を背景に、頭に白い雪の帽子を冠った富士山が胸を張っています。

本山へ着くと駐車場には、福岡・福山・神戸・京都・郡上八幡・神戸・上野と各地のナンバープレートをつけたバス群がずらりと並んでいました。ご供養の甘酒で一息ついては、旧知の相手を求めて新年のあいさつに暇があり

ません。

ドーン！

法要開始を告げる太鼓が鳴り響き、お上人方が昇堂されます。唱題・奉請・勧請・開経偈・寿量品……。二本バチの太鼓の響きが身体に心地良く沁みこんでいきます。そのリズムに、身を、心を委ねていると法要の終了。そして、山首上人さまのお問い掛けです。

「今身より仏身にいたるまで、よく法華経を持たんや否や」

高槻支院 新年祝禱会

多くの人の心の糧になりますように

平成29年元旦、キリツと引き締まった空気が正月らしい晴天の下、支院にて新年祝禱会が営まれました。境内には吹き流しが掲げられ、玄関には支院旗とお題目旗が左右に並べられ、今日が新年を祝う特別な日であることを表しています。

午後2時より関哉法尼、岩田上人のもと、支院新年祝禱会が厳修されました。

「よく持ち奉る。南無妙法蓮華経」
「今身より仏身にいたるまで、よく三徳を持たんや否や」

「よく持ち奉る。南無妙法蓮華経」
山首上人さまは皆の緊張をほぐすように、柔らかな口調でご挨拶を始められました。「皆さんも三徳を実行して、一層良い因縁起を招く年としてくださ

い」
ピシッ、と心が引き締められました。
(通信員 川合和美)

た。

法要終了後のご挨拶の中で、岩田上人は『樹徳』43号の記事より「徳を積みましよう」を引用され、「今年も一年、立派な福相になることを目標にして修養に励みましよう」とお話しくださいました。

その後、平成29年御法推進目標と支院の新しい御法推進実行目標を全員で



本山の新年祝祷会の日

唱和しました。加えて、今年からは毎講日にその日の『一日一言』を読み上げることになりました。今日はその初日です。またその内容を拡大印刷して、門前の掲示板にも貼ることになりました。通りがかりの方が足を止めて掲示板を見ていることがあるそうです。一人でも多くの人に読まれ、心の糧にしていただけばと思います。

翌2日、本山新年祝祷会の団参をさせていただきました。この日も快晴に恵まれ、団参バス一行は午前9時に支院を出発。途中、高速道路で多少の渋滞はありましたが、ほぼ予定通り正午過ぎに本山に無事到着しました。

境内で早速おいしい甘酒をいただき、各支院から来られた顔見知りの皆さんと新年の挨拶を交わし、しばし歓談した後、本堂に入りました。

午後1時より山首上人さま大導師のもと、新年祝祷会が厳修されました。法要後、山首上人さまより「今年は新しい革命的なことが起こる年と言われます。また、鶏は神聖で、縁起が良い鳥とも言われます。三徳を実行して縁起の良い年をもっと良い年にしてください。

さい」とのお言葉を頂戴しました。

この後、開山堂でおいしいお食事と豚汁とお屠蘇をいただきました。

その後、八事の御廟に立ち寄り、三先師・日達上人、並びに法縁の方々の墓参をしました。三先師・日達上人、並びに法縁の方々の荘厳な無縫塔にそれぞれ線香とロウソクの火を手向け、お水をかけ、日々ご守護をいただいている感謝と御報恩の誂経を上げさせていただきます。

こうして無事本山の新年祝祷会と先師の墓参を終えることができ、文字通り清々しい新年を迎えさせていただきました。

(通信員 新庄達吉)

神戸支院 新年祝祷会

慈愛に満ちたお顔を拝し、決意新たに

平成29年元旦。午前11時、春のような暖かい陽射しに包まれ、多くの参詣

者が集う本堂で、田中上人導師のもと

支院新年祝祷会が厳修されました。

法要後、山内運営委員長の新年のご挨拶の後、平成29年の御法推進目標

「自説誓言」を全員で力強く唱和しました。

その後、田中上人より「お題目をしつかりと唱え、今年も三徳の教えを守って、実行していきましょう」とのお話をいただきました。

家族全員で来られた方や、遠方より帰省され家族とともに参詣された方など、お正月の雰囲気は漂う中、皆さん笑顔で和やかに、新年の挨拶を交わされているのが印象的でした。

翌2日、穏やかなお天気に恵まれ、団参バスは午前8時30分、本山に向けて支院を出発しました。バスの中は和やかな雰囲気、楽しいおしゃべりの花があちこちで咲いていました。

予定通り、正午に本山に到着。新年祝祷会の始まるまでの時間を、皆さんおいしい甘酒をいただきながら、他支院の方と新年の挨拶を交わし、談笑を楽しまれました。

午後1時より新年祝祷会が始まりました。本堂内にお題目の唱和が響きま

たります。山首上人さま大導師のもとで新年の法要が厳修され、「法華経・三徳の奉持」のお誓いをしました。

山首上人さまより「鶏は、吉兆をもたらず縁起の良いモノと言われている。今年は一層お題目を唱え、三徳の実行をして縁起の良い年になりますように」と、ご挨拶いただきました。

山首上人さまのご慈愛に満ちたお顔を拝し、お題目と三徳の実行の決意を新たにさせていただきます。

午後2時30分、温かいお見送りを受け本山を後にしました。帰路も大した渋滞もなく午後6時30分、無事支院に到着しました。

諸天善神・三先師・日達上人・山首さまのご守護の賜物と、参詣者一同、喜びと感謝の心でお礼を申し上げます。
(通信員 石田成子)

大阪支院Ⅱ新年祝祷会

良い革命を起こしましょう

平成29年元旦、暖かく穏やかに年が

明けました。午前11時より、古山上人



本山の新年祝祷会の日

導師により支院新年祝禱会が厳修され、大勢の方が晴れやかな笑顔で参詣されました。境内の空気も一層清々しく感じられます。2階玄関には門松が美しく飾られていて心も和みます。(ガーデンングクラブの方々の苦心の賜物です)

法要後、お上人は本堂に掲げられた『意安』の言葉について「これは、いつも心楽しくという意味です。山首上人さまの教えのように、どんな時も喜びの心を持って上機嫌で三徳を實行していきますましよう」とお話しくださいました。

続いて、寺田運営委員長より「正しい教えである法華経に、より心を合わせて災害に遭わないように励みましよう。また、来年迎える支院法灯百年に向けて頑張らましよう」と力強いご挨拶がありました。

平成29年御法推進目標の唱和も元氣良くさせていただきました。

最後は、昨年の御法推進全国大会で紹介された法音寺広報委員会作成によ

るDVDの上映です。活動状況や災害ボランティアに参加された皆さんの作業の様子などを見せていただき、閉会となりました。

翌2日、本山新年祝禱会に向けて3台のバスは午前8時40分に支院を出発。予定通り本山に到着しました。

早速、境内で甘酒をいただきながら、「毎年ホツとするね」と皆さん口を揃えておっしゃっていました。

午後1時より、山首上人さま大導師により法要が厳修され、法華経・三徳の護持をしつかりお誓いさせていただきますました。

田川支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

何事も良きに悟ります

日の出よりも少し早く自宅を出ました。福岡は雪の心配もなく、風もなく、穏やかに暖かい朝でした。

1月2日、午後1時からの本山での新年祝禱会に参詣させていただきました

法要後、山首上人さまはご挨拶に続いて、今年は酉年ということで「鶏は神聖なものだとされています。鶏が鳴くと魔物も退散するそうです。より一層三徳の實行に励んでください」とお話しくださいました。

開山堂でいただいたおせちと豚汁の味も格別でした。ご奉仕の皆さん、ありがとうございました。

帰りは心温まるお見送りを受け、午後2時20分に本山を出発しました。バスの中では「酉年の力をもらって、魔を転じるように良い革命を起こしましよう」と話し合いました。

(通信員 坂井信子)

た。

当日はお題目を唱え、いただいたお徳を落とさないようにすることを念頭にしながら本山へ赴きました。甘酒をいただき、立派に剪定されたカリンの

木を見上げながら、今年もどんなに大きく立派な実をつけることかと思いを巡らせました。

本堂に入り、お屠蘇をいただく、いよいよ法要の始まりです。山首上人さまより「酉年は変化の年でもありません」とのお話をうかがいました。

何事も良きに悟り、笑顔で「ありが

一宮支院 本山の新年祝祷会団参

善いお話を指針とします

1月3日、本山新年祝祷会団参が行われました。新春を迎え、参詣できる喜びの顔を乗せ、バスは出発しました。バスの中で伊藤法尼より「山首上人さまのお話を心の耳でしっかり聞いて、今年の指針としましょう」とお話しいただき、皆さん心に留めました。

本山では寒い中、奉仕の方の笑顔に心が和み、いただく甘酒に体も温まり、山本教化室にて小休憩しました。

個々に来られる方々と合流し、温か

とう」と感謝の気持ちを素直に口に出せる、そんな日々が送れるようにお題目をしっかりと唱えることを胸に誓い、境内に咲く四季桜を見上げながら帰路に就きました。

ありがたい、幸せな一日でした。

(通信員 海野和子)

妙見法尼ご存命中のご教化の数々も思い出され、御報恩の念を深めつつ本堂へ昇堂しました。

堂内はお年賀一色。遠方の支院の皆さまを眺め、三徳の輪の広がりを感じ、語り合っているうちに法要開始です。先師の方々へ御報恩謝徳の心を込めて唱和させていただきました。

山首上人さまより「鶏は太陽を呼び、鳴き声で闇の魔物が退散する、と尊ばれてきました。こういう年に一層お題目を唱え三徳の実行をされると普段よ

り幸運が開けます」とのご法話をいただき、ありがたく拝聴しました。

お昼は開山堂にて奉仕の方の和顔施のご接待に学ばせていただき、おいしく昼食をいただき、三徳のみ教えに感謝して本山を後にしました。

続いて、開基堂輪番参詣へ。御開山上人の慈愛に満ちた遺影に迎えられて入堂し、喜びを語り合っていると法要が始まりました。御開山上人、泰岳院日芳上人(鈴木慈学上人)、静宣院妙綱法尼(祖父江妙綱法尼)、そして御開山上人のご両親に、御報恩謝徳の心を込めて唱和させていただきました。

高浪上人のご法話もありがたく、心に留めて拝聴いたしました。納経堂でのお参りでは、一冊でも多く納めることを誓いつつ唱和させていただきました。

研修道場でもおもてなしに感謝しながら、今年のお話を指針として実行することを誓われた皆さんは、支院に帰ると餅切りの奉仕をされ、笑顔で帰っていかれました。(通信員 今枝文字)

より良い革命の年になりますように

暖冬により快適な日となった平成29年元旦。午前10時より支院にて新年祝祷会が営まれました。

遠方より帰省した方々が家族揃って多く参詣され、皆さま新年の挨拶を交



大垣支院の新年祝祷会

わし、お抹茶とお菓子のご接待を受けながら久々の再会に談笑されています。

香村上人導師のもと法要が進められました。続いて執り行われた交通安全祈願会では、駐車場に並べられた車一台一台の前でお上人が祈願され、本堂でも車番と氏名が一人ずつ読み上げられました。

法要終了後、運営委員長から新年のご挨拶とともに「『法音』を隅々までお読みください。三徳開教110年に向けて、この一年をお過ごしください」とのお言葉をいただきました。続いてお上人は、御法の継承についてひもとかれ、トルコ・台湾からの日本への恩返しについてもお話しくださいました。「今年一年、まず身近な家族を大切にしてください。ありがとうと感謝の気持ちをお届けしてください」とのご教示も

いただきました。

ご法話後には、お上人より子ども達へお年玉の図書券とお菓子が贈られました。

その後、ぜんざいとお茶が振る舞われ、恒例のビンゴ大会・ジャンケン大会が行われました。ビンゴ大会は子ども会が率先して進行。頼もしい姿を見せてくれました。

子ども達の遊び声はまだまだ止まぬ中で祝祷会も終わり、ご供養を戴いた皆さんは笑顔で帰路へ就かれました。

元旦に引き続き、快適な日和となった1月3日、本山新年祝祷会に参詣させていただきました。支院へ午前9時に集合し、本堂にて交通安全祈願を行いました。

道中、運営委員長より「三徳開教110年に向けて今から心掛け、御開山会には是非ご参加ください」とご挨拶いただきました。

本山に到着し、境内で温かい甘酒のご接待を受け、他支院の方々と新年の

挨拶を交わしながら本堂へ入りました。午前11時より、山首上人さま大導師のもと新年祝禱会が営まれました。お題目にはお正月らしく子ども達の元気な声が混じっており、新年を感じさせていただきました。

三徳の実行を誓願し、法要後、山首上人さまより新年のご挨拶をいただきました。「酉年は新しいことが起こると言われています。より一層三徳の実

行をして、より良い革命を自分の中に起こしてください」とご教化いただきました。

法要終了後、開山堂にておせちと豚汁のご接待を受け、法友との談笑の尽きぬまま、次回の再会を約束して帰路へと就きました。

より良い革命の年になるよう、一日日精進したいと思っています。

(通信員 姫田拓男)

和泉支院Ⅱ本山の新年祝禱会団参

体も心も軽やかに、気分も晴々

今年のお正月は穏やかな気候で、とても気持ちの良い新年です。支院の団参は1月3日。バスは午前6時30分に出発し、10時過ぎに本山に到着しまし

た。自家用車や新幹線などで団参される方々もいらつしやるのですが、それぞれが渋滞に巻き込まれることもなく次々と到着されました。「今年もまた無事に、新年祝禱会にお参りさせていただいて良かったなあ」と思い、幸せ

な気持ちでいっぱいでした。また、暖かい日差しの下、法友と語り合いながらいただく甘酒は格別の味でした。

午前11時、大太鼓と唱題が響き渡る中、山首上人さま大導師のもと新年祝禱会が厳修されました。山首上人さまの「今身より仏身に至るまでよく法華経を持ち奉る、南無妙法蓮華経」と新年のお誓い、三徳の実行のお誓いをさせ



ていただきました。

法要後、山首上人さまのご挨拶で「酉は太古の昔から夜明けを呼ぶ、大

変縁起の良い鳥と言われています。今年には普段より三徳の実行に励み、良き改革を自身の中に起こしていただく「さい」とご教示いただきました。三徳の実行で善根功徳を積ませていただき、より良い一年にしていこうとお誓いしました。

昼食は開山堂2階でご奉仕の方々のおもてなしを受け、おいしい豚汁とおにぎり、おせちを頂戴しました。

帰路もまた、バスや自家用車の方々は交通渋滞に巻き込まれることなく、

三原支院Ⅱ新年祝祷会

初心に返ってお誓いしました

平成29年元旦、支院新年祝祷会並びに交通安全祈願会が営まれました。

10時頃から信者さん達も集まり始めました。新本堂の玄関ではお上人、お庫裡さまが迎えに来てくださり、それぞれが新年のご挨拶を交わした後、多目的ホール（顕修堂）に向かいました。多目的ホールでは甘酒が振る舞われま

また鉄道利用の方々もスムーズに帰ることができました。

今年も好天に恵まれ、無事に本山新年祝祷会にお参りできたことは諸天善神・三先師・日達上人、そして山首上人さまのご守護の賜物と、心から感謝いたしました。そして、たくさんのお徳をいただけたことを実感し、皆さん帰途に就かれました。

新年のこの気持ちを忘れず、山首上人さまのお導きのもと、日々精進して参ります。
(通信員 下方恭代)

した。ガラス窓が大きいので日当たりが良くとても暖かです。本堂からも受付からも中庭が見えてゆったりとした気持ちになりました。

本堂前の門松は、年末の28日にご奉仕の方により作られた物です。堂々として、新本堂を飾るにふさわしい実に立派な門松です。

新本堂で新年を迎えるということもあり、今年には特に家族連れの方が多く見られました。

午前11時、森野上人導師のもと新年の法要が営まれました。法要後、お上人より「この世の中には偶然ということはありません。すべて因と縁です。お徳を積むことで良い因縁に会うことができます。今年も良い人生を送ってください」とご法話をいただきました。

その後、御札・御符を戴いて、短冊のくじ引が行われました。景品としてたくさん品物が用意されました。一升瓶のお酒が当たった方は「家族全員でいただきます」と喜んでおられました。

1月3日、大変暖かな日和の中、本山新年祝祷会に新幹線で参詣させていただきました。

午前11時、山首上人さま大導師のもと厳かに法要が営まれました。法要後、山首上人さまより新年のご挨拶があり、「今年には酉年です。物事がどんどん大



豊川支院Ⅱ新春行事あれこれ

合格の秘伝を授かりました

【書初め写経会・2日】

午前9時30分、孝祥院にて初写経会が行われました。松の薫りと墨を擦る音が堂内で通い合い、純白な納経帳に、一文字一文字誓いの筆が運ばれました。

【交通安全祈願祭・4日】

午前10時30分、ありがたい春の光に包まれて交通安全祈願祭が営まれました。自家用車300台、自転車97台は一台ずつ、三宅上人からご祈願を受け、

きくなつて、新しいことが起きる変革の年と言われています。お題目と三徳の実行で革新の年としてください」とご教示いただきました。
笑顔と感謝の気持ちを忘れないよう精進してまいります。

《参詣者の感想》

○「初めて本山にお参りしました。中を拝見し、大きくてびっくりしました。

お経を唱えたことで今年も健康に過ごせそうです」（中学生）

○「法音寺の教えを聞かせていただくようになって30年余り、初めて本山の祝祷会団参に参加させていただきました。新年の清々しさの中で初心に返り、一つでも実行しますとお誓いしました」

（通信員 平田真弓）

ご挨拶、三徳実行をお誓いしての乾杯が交わされました。

法要後、三宅上人から「怒ることは争いの種まきです。家庭でも会社でも、それぞれが喜ばせ合い、今年一年、争わない日々にしてください」と、ご法話いただき、初講話の喜びを囁みしめ拝聴いたしました。

さらに今日の楽しみはもう一つ、本年の指針の福引です。引き当てたどんな御詠も、先師先哲、仏さまからの個人教化であり、直接のお言葉でした。

【試験合格祈願会・4日】

午後2時30分、試験合格祈願会が執

施主の皆さまは交通安全のため、車にも人にもぶつかることのないように、堪忍をお誓いされました。
【支院新年祝祷会・4日】
大題目旗が松風になびき、門松の鮮やかな緑が初参詣者をお迎えいたしました。午後1時、三宅上人導師のもと支院新年祝祷会が挙行されました。
本堂には満場の参詣者。御法推進目標「自説誓言」の唱和、運営委員長の

り行われました。高校受験6名、大学受験4名、国家試験1名の申し込みがあり、緊張の中にも、和気あいあいとした合格祈願会でした。

「試験には学力も必要ですが、身につ

坂支院Ⅱ支院新年祝祷会

久し振りの再会を喜びました

昨年末から暖かい日が続き、冬とは思えない日和となった1月2日午後1時より、平成29年の支院新年祝祷会が三宅上人導師のもと厳修されました。今年には信教師二人が宝前に上がられ、例年とは少し違う雰囲気の中、粛々と法要が行われました。

法要が終わり、三宅上人は「一年を無事過ごすには、怒らない（堪忍することです。そして、家庭の中からはめ合う生活をしていきましょう」とご教示くださいました。

その後、体に優しい生姜湯をいただき、皆さんお待ちかねの福引タイムとなりました。順番にくじを引き、当た

けた功德が肝心です。人を喜ばせる行いで、徳を備えてください」と、三宅上人から合格の秘伝を授かりました。

（通信員 鈴木康昭）

り番号の短冊を戴き、お互いに見せ合

東京支院Ⅱ初寒行

体力・気力を蓄えて、いざ出陣！

1月4日、今日は初水子地藏、初お題目会、そして初寒行。

職場へ出勤された方の中では、「おめでとございます。今年もよろしく」が飛び交っている頃でしょうが、こちらは体力・気力を蓄えて、自我傷十巻とお題目を、うちわ太鼓を鳴らしながら力いっぱい唱えること約1時間。「(法華経を、三徳を)よく持ち奉る」。2日の本山団参で、山首上人さまのお

ったりして、とても良い笑顔が広がりました。

10年振りにやっと来ることができた方、普段なかなかお寺に来られない方も参詣され、皆さんと楽しそうに久しぶりの再会を喜ばれていました。

最後に皆でお神通掛けをして、「今年一年しっかり徳を積んで精進していきましようね」と語り合い、帰路に就きました。（通信員 笹原眞由美）

問い掛けにお答えした言葉が思い浮かんできました。

猪原上人はご法話で、山首上人さまの新年のご挨拶を引用され、京都の名所司代と言われた板倉重矩の、不愉快なことが生じた場合ですら機嫌良く対応した人柄を示すエピソードと、日蓮宗新聞に掲載されたあるお上人のお話を紹介されました。それは、母親のかけた「時間つぶし」という言葉に、時

安城支院Ⅱ初講日

間をつぶしては時間さんがかわいそうと答えた小さなお嬢ちゃんのエピソードでした。彼女の感性ではおそらく時間も生き物。すべてに仏性があるという考え方を、改めて教えられたとのこと

法華経受持の祈りが捧げられました

1月4日、初講日が行われました。今日も大勢の参詣者でいっぱいとなりました。

午後2時、島田上人導師により信教師出仕で法要が行われ、お上人より年中安泰が祈願されました。その後、ご宝前にお供えされた方々お一人ひとりの施主名が読み上げられ、ご回向されました。

続いて自動車・自転車合わせて80

とです。お勤めと新たな智慧、行学二道を実践できた初寒行となりました。

(通信員 川合和美)

0台の交通安全祈願が行われました。

毎年、初講日には大勢の方々交通安全を祈願し、参詣されます。今日の法要にも、運転者、同乗者ともに諸天の守護により災難に遭わないように、法華経受持の祈りが捧げられました。ご法話の後、鏡開きのおぜんざいに舌つづみを打ち、福引を引いて、鏡餅をおみやげに頂戴して、新春の初講日を終了しました。(通信員 位田久子)

岐阜支院Ⅱ初講日

清々しい心と明るいい笑顔

1月4日、初講日と交通安全祈願会

が行われました。好天に恵まれ、穏や

かで暖かい初講日となりました。3カ所の駐車場に交通安全祈願を受ける車が分散して整列されました。

午後1時、自動車と自転車の交通安全のご祈願が行われました。力強い読経が境内に響き渡ります。参詣者も心を込め、安全を祈願されました。お上人はご祈願を受ける心得の中で「受ける方と祈願する側の心が一致しないとけません。仏さまへの感謝の気持ちをお忘れず、そのご守護を受けられるような生活を送ってください」とご教化くださいました。

午後1時30分、前原上人導師のもと初講日の法要が厳修されました。ご宝前においてまずは、交通安全お守りの願主全員の交通安全・災難消滅祈願の読経。続いて年中安泰が祈願され、本堂を埋めつくした満員の参詣者も真剣にお祈りされました。

終えて支院の各部会の代表者より、今年の抱負と活動目標が述べられ、最後に支院の実行目標が示されました。

1、会員倍増―誘いたい会員を作る

2、御報恩納経一年間4千冊の達成
3、お題目貯金―毎日1千回の唱題
続いてお上人方からお話をいただき、
最後に前原上人の初ご法話を、皆さん

西春支院Ⅱ初講日

喜ぶ心を増やします

1月5日の午前、恒例となった餅ま
きが行われました。

婦人部の皆さんは蒸し器と電気餅つ
き機を使い、準備に大忙しでした。お
餅の味つけにはカレー・小豆煮、そし
て大根おろし・きな粉等が用意されま
した。

蒸し上がったもち米を石臼に移し、
餅つきが始まりました。大体米粒がつ
ぶれた所で、今度は打ち水の人と杵で
つく人との調和よろしく「よいしょ、
よいしょ」の掛け声が響きました。杵
でつく人は交代しましたが、打ち水の
男性は終わりまで、一人で上手に餅返
しをされました。

外は風が吹いていたので、屋内の大

熱心に聴聞されました。帰りにはお鏡
餅と交通安全守を戴き、新年に向けて
清々しい心と明るい笑顔で支院を後に
されました。(通信員 三輪一女)

テーブルを囲んで昼食を摂りました。
小カップにちぎったお餅を入れて、そ
れぞれお好みの具をのせました。御飯、
お雑煮の汁も用意してありました。漬
物三種類とかまぼこ等も大皿に盛られ
てあり、銘々小皿に取りました。お餅
をおかわりするときには具材を変え、子
ども達は、もう満腹! という笑顔で
す。
午後1時30分より、渡辺上人導師の
もと初講日の勤行が始まりました。

平賀支院Ⅱ初講日・交通安全祈願会・製造機械除災難祈願会

大難は小難に…。交通安全を心掛けましょう

1月5日午後7時より、初講日が営

まれました。御報恩謝徳の法要に併せ

終えてお上人は「あたりまえの心が
不足を呼びます。ありがたいと喜ぶ心
が法華経の薬です。心の持ちようで良
い年にも悪い年にもなります」とお話
しくださいました。尊い一日一日です。
喜ぶ心を増やして過ごしたいと思いま
した。

その後、一人ひとりが今年の標準と
なる言葉をいただきました。その用紙
に「大当たり」と書かれた方は、特別
に景品を受けられました。次にお手伝
いの青年会員と参詣の子どもにお年玉
が手渡されました。

階下に移り、茶菓のおもてなしを受
けてしばらく談笑の時を過ごしました。
お帰りにはご供養も戴き、皆さん初
講日に参詣できた喜びのお顔でした。

(通信員 栗木良子)

て、交通安全祈願会並びに製造機械除災難祈願会も執り行われました。

周りは公共機関も少なく、人々は車と切り離せない生活をしております。

新しい御守にお徳をつけていただき、少しでも大難を小難に、安全運転に心掛けようと手を合わせる皆さんの真摯な姿が見られました。また、製造業に携わる方々の安全を祈願することも26回目となりました。お陰さまで長年大きな災難もなく、済ませていただいております。

法要後、後藤亮学上人より「怒りのもとは、自分の欲望からくるもの。日々の修養によって怒気も抑えられると言います。感謝と喜びで堪忍を守りましょう」とご法話いただきました。また、後藤上人より「妙法蓮華経の五字の次第は五節句です。正月は妙、3月3日は法と…、毎日お題目を唱えて自動車運転・自転車も歩行中も気をつけましょう」とご教示いただきました。帰りには新しい自動車の御守とともに、お供えされた鏡餅、本山の鏡餅の

お下がりも戴かれて、帰途に就かれました。

外は小寒らしく冷えこんできました。明日からは「寒行」が始まります。19

淡路支院Ⅱ初講日・交通安全祈願会

過ぎしやすいスタートでした

1月5日、初講日並びに交通安全祈願会が行われました。

今年のお正月は、穏やかなお天気で過しやすいスタートでした。当日は暦の上でも「寒の入り」ですが、本当に寒くなりました。

本山から三宅持温上人にお越しいただき、「お徳を積むと心が広くなり、求める心、自分の心が変わっていきました。自分のできることでお徳を積むことで自分の喜びにつながります」とご法話いただきました。田中上人は「酉年の由来は物事が醸成していくという事です。良いように変わっていくことが大事。徳を積み重ねて良い年に変えていきましよう」とお話しくだ

日間、一日に2、3軒で行われます。

「修養始めですね。体調に気をつけて乗り越えたいわ」という声が聞こえてきました。

(通信員 加藤寧子)

さいました。

その後、駐車場に移動して、交通安全祈願をしていただきました。

その後、役員の方がいつも手作りでくださるぜんざいをいただきました。本山から戴いたお餅を入れ、温かいぜんざいにして、みんなで「おいしいねえ」と言いながら食べていると、心も温かくなりました。

(通信員 川西広子)

支院だより掲載写真は、それぞれの関係者より提供されたものです。尚、本山新年祝祷会の写真は、加納将人氏の撮影です。

法音寺の ホームページが新しくなりました!

<http://www.houonji.com/>



スマートフォン・
タブレット端末対応!

下のQRコードからも
アクセスできます



※リニューアルに伴うURLの変更や廃止により、一部のページが見られなくなったり、リンク切れが発生することがあります。この場合は、サイトマップページで該当の情報を探しただくか、サイト内のキーワード検索をお試しください。

YouTube で 法音寺チャンネルが できました。

<https://www.youtube.com/user/houonjimovie>



ホームページから、またはYouTubeサイトで



◀◀ 左のQRコードからもアクセスできます



法音寺の紹介や歴史、活動記録をご覧になれます。

法音寺公式 facebook で 『一日一言』配信中!!

※ホームページからもアクセスできます。

Facebookのアカウントをお持ちでない場合

1. www.facebook.comを開きます。
2. 登録フォームが表示された場合は、名前、メールアドレスまたは携帯電話番号、パスワード、生年月日、性別を入力します。フォームが表示されない場合は、[登録する]をクリックし、フォームに入力します。
3. [登録する]をクリックします。
4. アカウントの作成を完了するには、メールアドレスまたは携帯電話番号を確認する必要があります。



福祉のひろば

少子・高齢社会の中の日本の福祉

「なんぼになったかな？」

「30歳です」

「ははは、生年月日は？」

「大正12年」

「よう覚えとる」

朝日新聞（平成29年1月5日）に掲載された岡山市在住のある夫婦の会話です。夫妻はともに大正15年生まれ。奥さんは認知症を患っています。

「以前なら『90歳だろ』、と言ってケンカになりました。でも、今は正しません。だから平静でいられるのです」とご主人はおっしゃいます。奥さんは介護の必要度が最も高い要介護5。

夫妻に子どもはなく、一軒家に二人暮らしです。異変は15年前から。7、8年前から徘徊が始まり、ご主人を認識できなくなりました。

「家に帰る」という奥さんに、「ここが家！わしが主人だろ！」とご主人が怒鳴っても、首を振るばかりの奥さん。介護するご主人は精神的・体力的に追いつめられていき、挙句の果てに体を壊して入院することに…。

ボケババア。殺してやろうかと思うと身が震えた…。

長年つけている日記には激しい言葉が目立つようになっていました。

長年一緒に生活してきたパートナーなのに、

一番忘れてはいけない相手のことを認識できなくなるのが認知症なのです。

そんなご主人は2年半前に、認知症介護体験講座の新聞記事を目にし、実際に参加されました。そこで、「認知症の人の言動を正さず、『演技』で受け入れることの大切さ」を学ばれました。そこで、次第に演技をして話を合わせなければ、お互い穏やかに過ごせることを実感するようになったそうです。

私も妻もパニックにならずに済む日記から、後ろ向き言葉が消えていききました。

「介護には終わりが見えないのです。つらさを紛らわすために『演技』が必要です。だいぶ、救われています」

認知症介護では、相手の感情に寄り添うことが大切と言われます。しかし、現実にはほとんどの場合、介護する側が、認知症を患う家族に

優しくできないことで自分に嫌悪感を抱くことが避けられないようです。

認知症介護体験講座は全国各地で行われています。

この方が参加したのは、認知症の人の役や介護者役をお互いが演じ、とっぴな言動を受け入れてくれた時、否定された時、それぞれの気持ちに参加者に実感させる講座でした。大半の人が、受け入れてくれた時の方が「心地良い」と感じたといえます。認知症が進んでも感情は残っているわけですから、誰だって否定されてうれしいはずがありません。

講座の主催者は言います。「言動を正せばストレスを与えてしまう。逆に相手の世界を受け入れて、時には別人になることで、介護する人も穏やかに過ごせることを知ってほしいです」

何事も、相手を受け入れる心ココロが大切なのですね。

(K・T)

福祉に 生きる



社会福祉法人 昭徳会

特別養護
老人ホーム

小原安立の実践

『日本の福祉を築いたお坊さん』に学ぶ。

鈴木修学先生が築き上げた福祉の

新たな未来を切り開くために…

昭徳会の一員として使命を果たします

小原安立 介護員 永井 千尋

この本では、鈴木修学先生が行ってきたこと、人となり、私の所属する社会福祉法人「昭徳会」が現在にいたる経緯等が大変わかりやすく書かれており、修学先生や昭徳会が掲げる基本理念についてよく知る機会となった。そして今後も修学先生が大きくした昭徳会の一員として恥じることはないよう、日々の業務に励まなければという使命を感じた。

まず成功を収めていた家業の菓子問屋を手放し、仏教感化救済会に入会したということに驚いた。繁盛している店をたたむということは並大抵の決意ではでき

ないだろう。杉山辰子先生との出会いとその言葉は、それだけ大きな影響力を持っていたのだろうと感じた。また、後の日本福祉大学設立も含め、修学先生は大変に行動力のある人物であると感じた。

生の松原のハンセン病療養所での話は衝撃的だった。結婚して間もない最初の任務だというのに、周りからの援助もほとんどなく、若い二人だけで療養所の経営を行っていくことが相当困難であろうことは容易に理解できた。しかし、それでも自分たちの着物を質に入れたりして、くじけることなく患者のお世話を続けた修学先生とみつ夫人だったからこそ、多くの信者たちの心を動かし、寄付を申し出てくれる人が多く現れたのだろうと感じた。特に、患者たちにお祭りに着ていく着物を用意するために、自分の一番大切な宝物である金時計を売るというエピソードには心を打たれた。さらに、みつ夫人までもが自分のたった一つの大切な晴れ着を売ってしまう。そんなみつ夫人だからこそ、修学先生の妻として一生寄り添い支えていくことがで

きたのだろうと思う。ただ、それほどの方でも二度も自殺を考えたことがあった、という話にはとても衝撃を受け、心が痛む思いがした。一方で、このハンセン病療養所を引き継いでもらえることが決まったとあり、本を読んでいる私もホッとしたような気持ちになった。

修学先生の「ほめて育てる」という教育の方法は、とても説得力があった。私はもう子どもではないけれど、今でもほめられるとうれしい気持ちになり、もっと頑張ろうと前向きな気持ちになれるからである。ついつい叱ってしまいそうになるけれど、ほめて育てることはとても効果があると思った。私も参考にしていこうと思う。また自らが真っ先に動くという修学先生の姿に、多くの人々が慕ってついていくのもうなづけた。

多くの施設の運営を行う中、身延山での大荒行を三度も行うなど、僧侶としても大層な人物であることも知った。さまざまな困難をあきらめることなく乗り越え、どんな時も法華経の教えを守り続け、身延山の

荒行を終えて日本福祉大学を開学し、本書のタイトル通り日本の福祉を築いた修学先生が大切にしてきた「昭徳会」に所属していることを誇りに思う。

修学先生の心の広さ、意志の強さはすごいです

小原安立 介護員 石井 瑛梨香

私はこの本を読んで、鈴木修学先生はすばらしい方だと思いました。人を助けるためとはいえ、私には自分を犠牲にしてまで人に尽くすことはできないと思いました。もし私がハンセン病の療養所に行ったとして、感染力は弱いとわかっていても周りの目を気にしてしまい、患者さんたちにうまく接することができないと思います。そんなことを気にもせず、自分の生活を犠牲にしてまで人を助けることができるなんてすごいです。修学先生の妻のみつさんにも感銘を受けました。人のために尽くす修学先生に不平不満を一言も言わず夫を支えるなんて、私だったらたくさん不平不満を

言ってしまいそうです。

法華経の教えを「慈悲」「至誠」「堪忍」という三徳にまとめ、人々に論じた杉山先生も大変なお方です。この三徳の教えを理解して日々の生活に応用して実行することはとても困難で、私にはとてもむずかしいことのように思いました。特に堪忍は、腹を立てず、恨みや怒りを捨て去り、理不尽な出来事からも逃げ出さず、他人を許す広い心を持つことは容易ではありません。

戦争中の修学先生にも驚くばかりでした。特高警察に連行され厳しい取り調べを受けても、一切言い訳をせずポロボロの姿で拘留先から解放されますが、そこまでして教えを守り抜くことができるのはとても意志の強い人だからでしょう。私だったら人のために強くなれず、すぐに言い訳を言ってしまうそうです。

戦災孤児に対しても大きな愛を持って温かく見守り、心の傷が癒えるまで愛情を注ぎ込んで良いところを見つけてはほめてあげるなんて、心が広く大きな人だと

思います。私が同じ立場だったらきつと、堪忍を守り切れず叱ってしまおうと思います。修学先生は、いつも冷静に物事を考え、本当に何事に対しても「慈悲」「至誠」「堪忍」を忘れずに実践されたのだなと思います、とても尊敬します。

修学先生が子どもたちのために音楽やスポーツを取り入れ、心の豊かさを育もうとされたのは、本当に良いことだと思います。私も音楽をやっていたのでその楽しさはよくわかっています。音楽をやると心が楽しくなり、仲間もでき、同じ音を共有することで一体感を持つことができますからです。

修学先生はお坊さんになってからも厳しい修行をされながら、自分のことより他人のことを考えていらっしやいました。そんな修学先生だからこそ、すべての人々が仏さまの子どもであり、平等に幸せを得ることができ「如我等無異」の教えを「人類愛の精神」と表現することができたのだと思います。本当にこの本を読んで修学先生の心の広さ、意志の強さを知ること

ができました。それに三徳の「慈悲」「至誠」「堪忍」の大切さも知ることができました。とても勉強になる本を読むことができて良かったです。

明るい心で仕事に取り組みます

小原安立 介護員 岡本 暢之

日本の福祉を築いたお坊さん、鈴木修学先生の人生が綴られた本を読ませていただきました。主に修学先生が考えたことや、修学先生が出会った人物との会話の中で、私自身がこれから社会福祉法人昭徳会の職員として、常に考えながら仕事をした方が良いと思うことを述べたいと思います。

修学先生は、自分の人生の意味を考え、その後、仏教感化救済会の創立者・杉山辰子先生に会いに行く場面があります。

「あなたには、あなたでなければできない大切な役割があります」

私自身も仕事の際に考えることがあります。仕事をする上での自分の役割や役目、すべきことは何なのかを考え、日々の業務を行っています。自分の役割や役目が自分の中でわかった時には自分が進むべき道ができませんし、間違っていたとしてもまた考えていくことが大切です。これから社会で働いていく上で、私にしかできない大切な役割を考え見つけていかなければ、と感じました。

次に、終戦直後の育児院、名古屋養育院で働いていた施設職員と修学先生の会話。

「どんな困難な状況でも、明るい心を失ってはならない」

「物質的には恵まれなくても、心の持ちようで希望の光は見えてくる」

終戦直後で生きていくだけでも困難な状況の中、子どもたちに不安を与えないようにしなければならぬ。それは終戦直後だけの話ではなく、常に頭の中に置いて考えなくてはならないことだと思います。私が働い

ている高齢者の施設の場合、入居者さんに不安を与えないよう、明るい心を持って関わる必要があります。明るい心を失っているとそれが入居者さんに伝わってしまいます。辛い状況であろうと、明るい心を失ってはならないと思いました。また、どんな困難な状況でも心の持ちようで希望の光は見えてくるという言葉信じ、できる限り明るい心を持ち続け、これから仕事をし続けていきます。

修学先生からこれから働いていく上で大切なことを教わりました。「自分にしかできない役割を持ち、明るい心を失ってはならない」

それは昭徳会の活動の基本方針とも関係していると思います。

修学先生が作り上げてきたものは、昭徳会の職員として働いていく上で大切なことばかりです。それをこわさないように、昭徳会の職員の一人として働いていきます。

修学先生の前向きな姿を心に刻みました

小原安立 介護員 水野 里恵

数十年前前に福祉サービスマンや福祉教育に生涯を捧げた方がいたということに、まず感動しました。

鈴木修学先生は、叔父さんから勧められたのがきっかけで杉山辰子先生と出会い、杉山先生の言葉や行動を知り、その不思議な魅力に惹かれました。当時、人から見放されていた親戚の寝たきりの老人について杉山先生に相談をしました。その後、修学先生自らが看病をすることになり、病気を治そうと励ました結果、寝たきりだった老人が歩き出すまでになったというのはいすごいことだと思いました。この杉山先生との出会いで修学先生の人生が少しずつ変わっていったのだなと思いました。

その後、修学先生は結婚し、ご夫妻はハンセン病療養所の経営を託されました。ハンセン病は現在では治療法もあり、感染力も弱いとわかっていますが、当時

は恐ろしい病気だと思われていました。ハンセン病にかかっていることが発覚すると強制的に療養所に隔離されました。家族との絆も断ち切れ、生きる希望までも失って自ら命を絶つ人もいました。悲惨な現実を生きているハンセン病患者たちのために、修学先生は自分の大切な物を売りながら、療養所を立て直し、寄付のお願いに自ら足を運ばれたことで、その行いを中心に打たれた方が次々と現れました。それらの経験が福祉事業の指針になっていったのだなと思いました。

名古屋に戻った修学先生は、今度は罪を犯した少年の更生を任せられ、その少年たちと畑仕事をやっていたりしました。そこでできた野菜や米を貧しい人々に与え、その喜ぶ姿を見て少年たちは自分に自信を持ち、社会に復帰していきました。今までの体験は少年たちだけではなく、修学先生の支えともなっていたことに感動しました。

杉山先生が亡くなられた時、人生の師を失ったことで修学先生もとても悲しかったと思うのですが、杉山

先生から教えていただいたことをその後も活かしていかれたことにも感動しました。

修学先生は、親などから虐待を受けてきた子どもたちのために児童養護施設を作りました。保護された子どもたちの傷は深く、なかなか心を開くことはありませんでしたが、修学先生はいつも微笑んで話しかけ、一緒に何かをやることによって子どもたちの心を開いていきました。また、そうしたことを他の職員にも指導をしていきました。他にも保育園や診療所を作り、知的障がい児の生活も支えられました。

施設にいる子どもたちは次第に幸せになっていったのではないのでしょうか。修学先生がさまざまなことに積極的に取り組み、何度も大変なことを乗り越えてこられたことに感心しました。

私はこの本を読んで、修学先生の常に一生懸命に前を向いて歩いていく姿や、杉山先生の言葉にとっても感動しました。これから仕事をしていく中で、入居者さんと笑顔を忘れずに向き合っていけたらと思います。

修学先生のご生涯を友だちに紹介したいです

小原安立 介護員 木村 優希

私はこの本を読んで、鈴木修学先生がどのような考えで日本福祉大学を創ったのかを知ることができました。

修学先生は叔父さんの強い勧めで仏教感化救済会の創立者・杉山辰子先生と出会い、法華経の教えにふれ、ハンセン病の人々や弱い立場にある人々を心から助けていくような人生を歩まれました。とてもすごいことだと思いました。また、この本では法華経の教えもとてもわかりやすく書かれていました。

プロローグでは、修学先生と中風（脳血管障害の後遺症）で歩けなくなった親戚の老人との逸話が描かれています。杉山先生の教えをもとに老人のお世話や話し相手をされたことで老人が歩けるようになったのには、驚かされました。私も入居者さんに寄り添っていただける介護職員になりたいと思いました。

ハンセン病療養所でのことについて書かれている部分があります。当時は偏見と差別から強制的に隔離され、自ら命を絶ってしまう人がいたことを初めて知りました。修学先生は杉山先生から与えられた任務で生の松原にある療養所へ赴かれます。そこで療養所の施設や経営の状況がとてひどかったことを知ります。施設運営の資金も、費用を支払ってくれる入居者の家族が少なく、住み込みで働いている職員への給料も支払うにはとても厳しい状況でした。しかし修学先生は、法華経には、正しい教えの道を歩もうとする者は必ず試練に遭うことが記されている。この試練から逃げることはできない。杉山先生と法華経を信じてがんばってみようとお考えになり、くじけずに自らの大切な持ち物を質に入れ、福岡市内のお寺へ寄付を訴えにまわりました。もし私が修学先生と同じような立場になったとしたら、初めは修学先生のように療養所の方々のためにいろいろなことを行っていくと思います。途中であきらめてしまつて入居者の「博多どんた

くへ行きたい」という願いも叶えることができなかつたと思います。

昭徳会や日本福祉大学などの指針がこの生の松原で過ごされた二年半の体験から得られた三つの教訓からできていることを学びました。

その後、罪を犯した子どもたちと一緒に過ごして社会復帰のお手伝いをされました。その経験は、苦勞をともにし、真心をもって導けば、必ず人の心を動かすことができる、という確信と、その後の活動を支える糧となり、今の私たちへ受け継がれているのかなと思えました。

私はこの本を読んで、友だちにも修学先生のお考えにふれてほしいと思えました。人によって考え方や受け取り方が違いますが、これからの人生にプラスになると思います。また、私自身も昭徳会職員の一人として、修学先生の教えのもとに仕事をしていきたいと思えました。

仕事の中で三徳を実行します

小原安立 介護員 中根 裕子

「幸せになりたければ幸せの種をまくことが必要で、それには法華経の教えを実行すること。親のない子、病気で苦しむ子、生活に困っている不幸な人々を助け、幸せに導く教えで不幸な人々の手助けをすることこそ幸せの種まきであり、その種まきをすることによって人は本当の幸せになれるのです」

その通りだと思います。まず自らが法華経の教えの「慈悲・至誠・堪忍」の三徳を実行する。その姿を見て児童養護施設の子どもや障がい者の方も心を開いてくれるのではないでしょうか。三徳の教えは児童養育に必要な教えだと思います。

優しさをもって子どもたちに接すること、悪いことや間違ったことをきちんと教えること、広い心をもって接すること、叱ることよりも良いところを見つけてほめること。普通の子育てをしている私にもなかなか

できないことですが、親のない子どもや傷ついた子どもを育てるには本当に大切なことだと思います。そういった子は一層、大切に育ててあげないといけないと思います。

修学先生は障がい児の受け入れの時も「知的障がい児をありのままに受け入れること」「知的障がい児の成長を信頼すること」を基本方針として事業を推進されますが、ここでも法華経の教えの「如我等無異」が肝心なのだと思います。この世に生まれたすべての人は仏さまの子どもであり、誰もが同じように本当の幸せを得ることができるとい言葉も印象に残りました。

障がいをもって生まれてきても、みんな平等に幸せになる権利があり、仏性は平等に備わっているのですから、それを開花させてあげるお手伝いをしていけば、障がいをもっていても本当の幸せを手に入れることができるのだと思います。

私が福祉の道に進んだのは障がいをもつ妹のことが

あるからです。小さい頃から身近に障がい者がいたので、自然と将来の夢というのは医者や薬剤師（妹の病気を治したいと思っていました）、看護師など福祉系の将来を考えていました。

高校卒業後、近所の人の勧めで老人介護の道へ進みました。大変なことは多かったけれど、入居者の方とのふれあいなど楽しいことも多く、一旦子育てのため職を離れましたが再び介護の仕事に戻ってきました。

それはこの仕事が好きなのと、自分の行動で入居者の方が少しでも楽しく過ごせたら、と思うからです。法華経の教えの「慈悲・至誠・堪忍」を実行できるように、これからも自分の修行だと思いい職務にあたっています。くつもりです。

福祉分野では私は介護施設しか経験がないので、機会があれば児童養育や障がい者の分野にも携わってみたい

たいです。これからも基本方針・職員行動指針を大切に、入居者の方の幸せを考えて楽しく仕事をしたいと思っています。

特別養護老人ホーム 小原安立

- 愛知県豊田市沢田町座内22
- 入所定員80名。ショートステイ6名。グループホーム6名。
- 職員 正職員44名、パート職員等37名

●介護員Ⅱ入所者の食事介助、排泄介助、入浴介助、移動介助、清潔・整容介助を主に担当。国家資格である介護福祉士の取得者が望ましいが、介護員として特に資格は必要としない。介護員として3年間の実務経験と実務者研修の修了で国家資格である介護福祉士の受験が可能となります。

※本稿は平成28年9月にいただきました。（掲載順不同）

『日本の福祉を築いたお坊さん』 日本福祉大学を創った鈴木修学上人の物語

星野貞一郎著・中央法規出版・新書版・160頁・800円（税別） 本書の著者印税のすべては「あしなが育英会」に寄付されています。

家族との絆を大切に



写真提供・昭徳会

特別養護老人ホーム・小原安立
～その方らしい、いつもの暮らしを支援～

特別養護老人ホーム小原安立は「入居80名・ショートステイ6名」の定員です。

当施設はユニット型施設で、食事の場所やリビングなどのスペースが少人数のグループで生活できるように分かれていて、10名のグループが8つあります。少人数でケアができるため、職員も入居者さんとなじみの関係をつくることができます。入居者さんが自分の住まいと思えるような環境づくり、そして、今までの暮らしが継続できるように支援、その方に合った暮らしを保証することが使命であるため、職員は入居されている方の生活が充実したものになるよう日々支援しています。

入居者さんの生活を支援するにあたり、入居時には今までのどのような生活をされていたのかをご家族にうかがいます。入居される方が「この施設でこれからのように暮らしていくのだろう」と、ご家族は心配になるものです。今までの生活についての聞き取りは、ご家族と職員との信頼関係の

構築にもつながります。

聞き取りをもとに24時間の生活がわかる表（24時間シート）を作成します。生活習慣を継続させ、その方に適した生活を考えるのはもちろん、自宅に帰りたい。おいしい物が食べたい、などの願いや希望も叶えられるよう考えていきます。例えば、昔から住んでいた自宅に帰りたい、という要望があれば、職員がご家族にその要望を伝えます。ほぼすべての場合、快く受け入れてくださいます。最近の話ですが、昔からのご友人もその方が自宅に着くのに合わせて来てくださいました。長年暮らしていた自宅で皆さんに囲まれて、楽しいひと時を過ごされました。

誕生日会ではご家族に事前に連絡をとり、できるだけ一緒に過ごせるように支援しています。中には一緒に外食へ行かれる方もいらっしゃいます。外出が困難な場合は、ご本人の居室などで誕生日会を。担当職員が中心となってご家族と一緒に内

容を考え、その方らしい誕生日会を開催しています。

終末期に施設での看取りを希望される場合、今後の生活をどのようにしていくかについてご家族と話し合い、悔いのない支援ができるようにしています。ご本人の好物と一緒に食べることもあります。最期をご家族とともに過ごせるように数日間施設に泊まっていたりすることもあります。あるご家族は「施設に入れてしまったという後悔はありませんでしたが、最期の時間を一緒に過ごすことができ、また家族が一体となることができました」と話されました。

今後とも入居される方がご家族と良好な関係が築けるように、職員一同で支援していきたいと考えています。

特別養護老人ホーム・小原安立

ユニットリーダー（介護員）

高山敦史

グローバル化社会の「ふくし」を担う人材を育成する

～日本福祉大学国際福祉開発学部（東海キャンパス）

日本福祉大学国際福祉開発学部の教育理念は、「世界の人々の持続可能な『幸せ』のために、国際的なチームで協働して地球市民としての責任を果たすことのできる人材を育成する」ことです。

私たちの普段の暮らしにおいて、近年ますます「グローバル化する社会」を一人ひとりが身近に感じるようになってきているのではないのでしょうか。国際社会に目を向けると、紛争や貧困問題はますます複雑化し、テロや難民の問題などから目をそらすことができません。また、人・モノ・情報が国境を越えて簡単に行き交うようになり、国内においても人口減少社会の中で外国人労働者の受け入れといったことをどう考えていくのかなど、多文化共生の問題に直面する時代です。

自分とは異なる価値観を持つ人々と手を携えて、

国内外における「ふくし」課題に取り組む人材の育成は、ふくしの総合大学である本学が取り組むべき重要な課題です。何より、創立者鈴木修学先生が記された『建学の精神』の前半部分には、次のように明確に記されています。

『広い世界的視野を持ちつつ、社会事業を通じて、我が人類のために自己を捧げることが惜しまぬ志の人を、現実の社会に送り出したい』

国際福祉開発学部では、学生が国際的な教養を身に付け、英語やICT（情報通信技術）を活用する能力を持って、国際的なふくし課題の解決に当たることができるようになるために、さまざまな教育プログラムの充実に努めています。

中でも学生たちが大きく成長するプログラムは、何といっても海外研修です。毎年2月に入ると、



写真提供・日本福祉大学

1年生全員が2週間の海外研修に出かけていきます。入学して1年次の講義をすべて終え、世界に飛び出して現場を見つめ、自分を見つめ直す貴重な機会となっています。

研修先は本学と協定を結んでいる、アメリカ・カンボジア・フィリピン・マレーシアの各大学。先輩たちの体験報告を聞いて、4カ国の中から研修先を選びます。現地の学生のサポートを受けて、その国の文化にふれ、貧困をはじめとする社会問題や社会開発についての講義を受け、現場を訪問し、問題解決について議論を深めていきます。言葉の壁にぶつかりながらも、若い素直な感性で異なるものの見方・考え方に気づき、異文化への理解力やコミュニケーション力を高め、短期間でもたくましくなっています。

また、東海キャンパスは中部国際空港に一番近い大学キャンパスという恵まれた環境にあります。空港をサテライトキャンパスと位置づけ、新入生セミナーやセントレアホテルでの研修、空港案内ボランティアへの参加などは本学ならではの取り組みです。今年も1年生はもうすぐ海外研修に出発します。今年の学生たちはどんな顔つきで帰ってくるのか、その姿が楽しみです。

日本福祉大学国際福祉開発学部事務長 西峯太司郎

幸せの種まきⅡ一人が一人を

自分のことを考える前に 身近な人を喜ばせましょう

まわりの人の喜ぶことをしていくと心が
広くなりますが、自分のことばかり考えて
いると心は狭くなります。

大乗山 法音寺

編集後記

今月号では各地で新年を迎えた様子がたくさん報告されています。法音寺も今年からホームページを刷新し、動画配信や毎日「一日一言」をフェイスブックで配信するなど、新たな取り組みをスタートさせました。ぜひそちらもご覧いただきたいと思います。

さて、これから節分のシーズンですね。節分の行事は中国において紀元前三世紀頃から、わが国では奈良時代から行われており、「豆をまいて邪鬼を払うようになったのは室町時代からだそうです。ちなみに「鬼」という語は「陰（おん）」に由来し、目に見えない邪気のこと。昔の人は、災害・病・飢饉など、人間の想像力を超えた恐ろしい出来事はすべて鬼の仕業と考えたのですね。

また、鬼が住むのは鬼門である丑寅の方向なので、鬼は牛（丑）の角と虎（寅）の牙を持ち、虎柄の「ふんどし」をしているのだそうです。

さらに、大豆は穀霊が宿るのでされており、魔の目（魔目Ⅱまめ）に豆をぶつけて魔を滅する（摩滅Ⅱまめ）ために使われるのだとか…。

以上、節分にまつわる豆（？）知識でした。ちなみに法音寺の節分会では豆はまきませんが、「鬼は外」とは言いません。

皆さまのご参詣を心よりお待ちしております。

おかあさん

竹中 淳



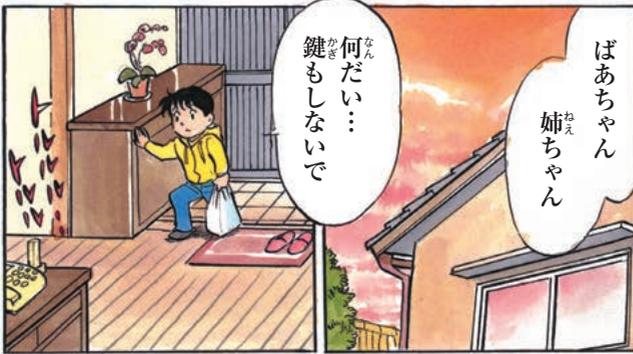


翌日
よくしつ











ちがうわ
これは母子手帳
あ それ うん…
じゃかけて待ってて

えーと
どれだろ
これ？
これかな



保険証ね

あ…そうだ
これを持って
来てって
いわれて…



…
母さん



十二月十二日
蓮くんはじめて
生まれてきてくれて
ありがとう 私がお母さん
よろしくね♡



未熟児で生まれた
あなたは保育器の中…
しばらくは
抱っこしてあげられ
なくてごめんね

一月十日
 ひさびさにあなたは私の腕の中
 これからは父さんと二人で
 あなたを守ります



たくさんオツパイ飲んで
 元気な子に育ってね♡



五月七日
 昨夜から熱がある
 夕方になっても下らない
 とっても心配



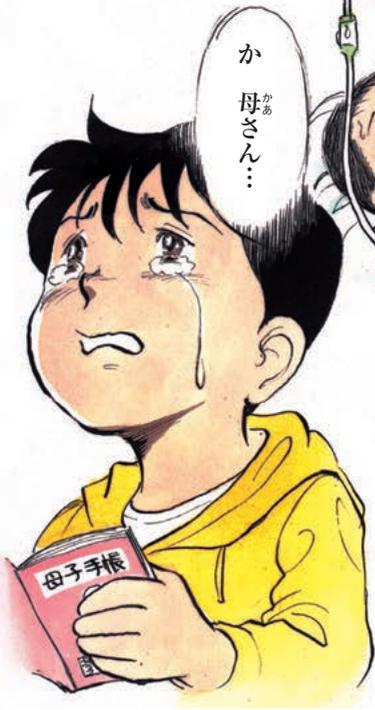
五月八日
 入院 小さな小さなカラダに
 点滴だなんて...
 できることなら代わって
 あげたい



神さま
 仏さま
 私と
 ひきかえにこの子を
 お守りください



か
 母さん...





蓮れん
ごめんね
心配かけて



心配しんぱいしたん
だよ



母かあさん…



ボクを生うんでくれて
ありがとう

おしまい

法音寺関連書籍のご案内

青山書院刊

東京都杉並区西荻北5-4-1

妙法蓮華経略義 鈴木修学 著

A5版上製・863頁・定価6,000円(税込)

無量義経略義 鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円(税込)

仏説観普賢菩薩行法経略義

鈴木修学 著

四六版上製・165頁・定価2,000円(税込)

撰法華経略義 鈴木修学 著

A6版皮製・101頁・定価700円(税込)

仏教聖語の解説 鈴木修学 著

B6版・230頁・定価1,800円(税込)

道徳と宗教 鈴木修学 著

B6版・209頁・定価1,000円(税込)

教育まんが

B5判 平均64頁 定価各600円(税込)

八正道の話 因縁の話 菩薩行の話
功德の話 お彼岸のはなし 十界の話
十王の話 定価1,000円(税込)

— その他多数。お問い合わせください。

山喜房佛書林刊

東京都文京区本郷5-28-5

鈴木修学先生の南無妙法蓮華経

浅井圓道 著

四六版上製・202頁・定価1,600円(税別)

大乘山法音寺三徳開教百年史

(1) 安立大法尼の時代

A5版・490頁・定価4,000円(税別)

(2) 宗玄大徳の時代

A5版・516頁・定価4,000円(税別)

(3) 御開山上人の時代

A5版・628頁・定価6,000円(税別)

(4) 第二世日達上人の時代

A5版・714頁・定価7,000円(税別)

(別巻) 仏教感化救済会の信仰

A5版・272頁・定価3,000円(税別)

中央法規出版刊

東京都台東区台東3-29-1

福祉を築く —鈴木修学の信仰と福祉—

西山茂・秦安雄・宇治谷義雄 共著

A5版・224頁・定価3,200円(税別)

日本の福祉を築いたお坊さん

星野貞一郎 著

新書版・160頁・定価800円(税別)

まんが・法音寺物語

法音寺広報委員会 企画

上=安立大法尼の時代

中=宗玄大徳の時代

下=御開山上人の時代

B5版・96頁総カラー・定価各巻1,000円(税別)

仏教タイムス社刊

東京都新宿区市谷田町2-7

大乘山法音寺の信仰と福祉

西山茂・小野文瑠・清水海隆 共著

A5版・205頁・定価3,200円(税別)

凡夫を菩薩に転ずる僧伽

仏教タイムス編集部

A5版・132頁・定価800円(税込)

大乘山法音寺の源流と近現代仏教福祉

浜島典彦・清水海隆 共著

A5版・60頁・頒価500円(税込)

お問い合わせは法音寺寺務局、又は各支院・
布教所にどうぞ…



自説誓言

一人を導く功德は広大です
是非一人は導きましょう

写真・法音寺大本堂

《山首上人の大荒行御成満奉告法要の砌》

日蓮宗大乘山 法音寺

〒466-0832 名古屋市昭和区駒方町3-3 TEL.052-831-7135
http://www.houonji.com FAX.052-831-9801

講話日

毎月7日・17日・27日
午後1時30分



法音寺の社会福祉・教育事業



徳を昭(あき)らかにし、徳を以って世間を照らす

社会福祉法人 昭 徳 会

■児童養護施設

駒方寮
名古屋養育院
名古屋若松寮

■障がい児入所施設

小原学園

■障がい者支援施設

小原寮
泰山寮

■特別養護老人ホーム

安立荘
高浜立庄
小原安立

■障がい福祉サービス事業

授産所 高浜安立

■軽費老人ホーム(特定施設入居者生活介護事業)

ケアハウス 高浜安立

■軽費老人ホーム

ケアハウス 大阪安立

■養護老人ホーム

養護老人ホーム 高浜安立

■自立援助ホーム

慈泉寮

■保育所

駒方保育園
光徳保育園
天王保育園

法人本部 〒466-0832 愛知県名古屋市昭和区駒方町4-10 TEL(052)831-5171
http://www.syoutokukai.or.jp

我が如く等しくして異なること無からしめんと欲す

学校法人 日本福祉大学

■日本福祉大学大学院

■日本福祉大学

■日本福祉大学中央福祉専門学校

■日本福祉大学附属高等学校

法人本部 〒470-3295 愛知県知多郡美浜町奥田会下前35-6 TEL(0569)87-2211
http://www.n-fukushi.ac.jp



法音・平成29年2月号・No.568・平成29年2月1日発行

発行所・日蓮宗法音寺／制作・法音寺広報委員会

非売品／印刷・(株)一誠社